



日本私立歯科大学協会広報

第88号
令和6年9月

目次

〈巻頭言〉

あ、渺々の蒼穹にー建学の理念を詠った校歌を誇りにー
宇田川 信之 …………… 2

〈大学のニュース〉

○北海道医療大学歯学部

・イェテボリ大学 Sahlgrenska Academy を
表敬訪問しました …………… 5
・「薬剤師・歯科医師インターンシップ in 沖縄」を開催
しました …………… 5
・北海道医療大学は創立 50 周年を迎えました …………… 5

○岩手医科大学歯学部

・高大連携ウィンターセッションが行われました …… 6
・内丸メディカルセンター体験ツアーが行われました …… 6
・最終講義が行われました …………… 6
・4 学部合同セミナーが行われました …………… 7

○奥羽大学歯学部

・SD 研修会 …………… 7
・附属病院 自衛消防訓練 …………… 7
・仙台国際ハーフマラソンへの学生ボランティア参加 …… 7
・2024 年度第 1 回 FD 研修会の開催 …………… 8

○明海大学歯学部

・歯学部交換研修 アメリカの協定校 3 校から
研修生が来学 …………… 8
・【さくらサイエンスプログラム】檀国大学校(韓国)から
の研修生受け入れレポート 第 2 弾 …………… 8
・ウェスタンケープ大学(南アフリカ共和国)の学生らが
坂戸キャンパスを訪れました …………… 9
・メキシコ州立自治大学(UAEM) 創立 60 周年記念事業
にて歯学部の坂上教授が招待講演を行いました …… 10

○東京歯科大学

・東京歯科大学リカレント教育セミナー開催 …………… 10
・第 5 回東京大学・東京歯科大学合同研究報告会開催 …… 11
・東京歯科大学口腔がんセンターにて歯科大学で
全国初の口腔がん免疫治療が実施される …… 12

○昭和大学歯学部

・「昭和大学」から「昭和医科大学」へ校名を変更 …… 13
・昭和大学メディカルデザイン研究所開所式を開催 …… 13
・JAXA と宇宙医学科学研究をスタート …………… 14

○日本大学歯学部

・沖縄県歯科医師会会長の表敬訪問 …………… 14

○日本大学松戸歯学部

・新校舎「50 周年記念棟」使用開始 …………… 14
・新病院長に内田貴之教授が就任 …………… 15

○日本歯科大学生命歯学部・日本歯科大学新潟生命歯学部

・本学創立 118 周年記念式典 …………… 16
・東京・新潟の新職員 記念碑と銅像を清拭 …………… 17

○日本歯科大学生命歯学部

・ギネス世界記録認定 …………… 17
・口腔リハビリテーション多摩クリニック 菊谷院長 …… 17
・日本矯正歯科学会理事長 新井一仁教授就任 …………… 18
・筒井健機名誉教授 叙勲 …………… 18

○日本歯科大学新潟生命歯学部

・日本私立大学協会小出局長が新潟来校 …………… 18

○神奈川歯科大学

・横須賀ロータリークラブ主催「10,000 メートルプロム
ナードクリン作戦」に参加 …………… 18
・第 52 回神奈川歯科大学諸霊供養の会 …………… 18
・神奈川歯科大学附属歯科・健脳クリニック日本橋
開院 1 周年 …………… 19
・安否確認システムを導入 …………… 19

○鶴見大学歯学部

・鶴見大学 小林 馨名誉教授が「日本歯科医学会会長賞」
を受賞 …………… 20
・齊藤 悠学部助手(公社)日本口腔インプラント学会
国際誌優秀論文賞を受賞 …………… 20
・臨床研修歯科医修了証授与式・辞令伝達式 …………… 20

○松本歯科大学

・柔道家・出口クリスタ、ケリー姉妹 …………… 21
・歯科放射線学講座・田口 明教授が
ICO 国際学会賞 第 5 回国際骨粗鬆症学会 …… 22
・西本智実さん指揮「桜コンサート」盛大に …………… 22
・内科学 川 茂幸特任教授が日本消化器病学会学術賞
受賞 …………… 23

○朝日大学歯学部

・珠洲市での救護活動 …………… 24
・White Coat Ceremony 2024 …………… 24
・顕著な成果が認められる …………… 25
・災害時における救護病院指定に関する協定を締結 …… 25

○愛知学院大学歯学部

・令和 5 年度 第 58 回歯学部学位記授与式を挙行いた
しました …………… 25
・歯学部 1 年生一泊研修が行われました …………… 26
・本学が取り組む「宇宙歯学研究」について、歯学部
前田教授・近藤教授が高市早苗大臣(経済安全保障担
当大臣・内閣府特命担当大臣)に報告しました …… 26

○大阪歯科大学

・歯学部生が障がい者スポーツ大会でボランティア活動 …… 26
・キングス・カレッジ・ロンドン歯学部長建築中の楠葉
西学舎(看護学部)を見学 …………… 27
・歯科衛生士・歯科技工士国家試験 4 年連続、合格率
100%を達成! 社会福祉士国家資格とのダブルライ
センス取得者は新卒受験者で 6 名達成! …………… 27
・大阪歯科大学/立命館大学 口腔・リハビリテーショ
ン・栄養コンソーシアム設立総会を開催しました …… 28

○福岡歯科大学

・福岡歯科大学長に高橋裕氏を再任 …………… 28
・口腔医学研究センターシンポジウムを開催 …………… 28
・新キャンパス整備計画 1 期(新本館)起工式を挙行 …… 29
・福岡歯科大学生が日本小児歯科学会学術学生優秀賞を
受賞 …………… 29

〈事業概要〉

○令和 5 年度協会決算 …………… 30
○令和 6 年度協会事業計画 …………… 30
○令和 6 年度協会収支予算 …………… 32
○総会 …………… 33
○理事会 …………… 35
○部会・委員会 …………… 41
○事務局長会議 …………… 43

〈日本私立歯科大学協会関係の諸会議〉

○第 45 回全国私立歯科大学附属病院薬剤部長会 …… 44
○第 31 回日本私立歯科大学・歯学部附属病院
歯科衛生士協議会 …………… 44

〈叙勲〉 …………… 45
〈計報〉 …………… 45
〈人事異動消息〉 …………… 45
〈協会役員・部会・委員会名簿〉 …………… 59
〈一般社団法人 日本私立歯科大学協会加盟名簿〉 …… 60
〈賛助会員企業紹介〉 …………… 63
〈編集後記〉 …………… 64

巻頭言

あゝ^{びょうびょう}渺々の蒼穹に

— 建学の理念を詠った校歌を誇りに —



松本歯科大学歯学部長
宇田川 信之

はじめに

松本歯科大学は、長野県・信州松本平に位置（標高 707m）する創立 52 年の大学です。本学のキャンパスは、北アルプスの穂高連峰の高嶺から吹き下ろす爽やかな風の中、四季の移り変わりにつれて、さまざまな花々が目を楽しませてくれ、地域の人びとの憩いの場ともなっています。

創立者 故 矢ヶ崎 康博士の作詞による校歌「あゝ渺々の蒼穹に」は「建学の理念」が具体的に詠われています。この校歌は、「理性の不滅のタイマツを点しつつ、世界観の確立と社会の無限の法則性を追求」する使命を我々に強く銘肝させています。

本学の建学の理念に登場する佐久間象山先生（長野県松代町出身）は、1864 年に京都にて不遇の暗殺死を遂げました。今から 160 年前です。彼の日本の近代化を目指す基盤は、「科学技術の発展」にありました。この科学技術立国

の目的が日本の本質を高めてきたわけですから。そして、松本歯科大学の矢ヶ崎 雅理事長は、「国民の健康・生活を支える担い手」を育てる松本歯科大学の使命は、科学活動の世界的展開すなわち「教育と研究の有機的結合」であると喝破しています。

歯学部における研究・教育活動の現状

私は、1987 年に松本歯科大学を卒業、昭和大学歯科病院第 2 口腔外科（南雲正男教授）にて研修を始めました。鬼軍曹（実は優しい）のような南雲先生からまず学んだことは、忙しい診療の合間の昼食は、医局の隅で 3 分間以内に終えることでした。ここで臨床医としての心構えをしっかりと学ぶことができました。

その後、口腔外科から口腔生化学（須田立雄教授）に移籍して大学院生となりました。そこで私の運命を左右する破骨細胞に出会い、テキサス大学で破骨細胞の研究を行い帰国された

高橋直之先生（松本歯科大学特任教授）の下で、毎日破骨細胞を培養し、エキサイティングな楽しい研究生活を送ることになりました。

それから10年後、1998年3月31日、朝7時のNHKニュース「おはよう日本」のオープニングは、大阪城公園に咲き乱れるソメイヨシノの満開の美しい風景でした。その後、トップニュースとして、破骨細胞分化因子（RANKL）の発見について報道されました。この発見は、1980年代に我々がその存在を提唱したもので、雪印乳業生物科学研究所のグループがその本体を分子同定したものです。RANKLの発見からさらに25年経過した現在、RANKLの作用をブロックする中和抗体（デノスマブ）が、骨粗鬆症、癌の骨転移および関節リウマチ患者に対する治療薬として上市され、全世界で使用されています。我々は、さらにより良い骨粗鬆症治療薬の開発を目指して研究を継続しています。

さて、昨今日本のサイエンス力が急激に低下してきている危機的状況の中、歯学部にも所属する研究者および歯学部を卒業した研究者の活躍は目覚ましいものがあります。「味覚受容体」「唾液腺再生」「軟骨・骨・歯の発生」「飲水・食感・睡眠・顔面疼痛の神経生理学」「破骨細胞・骨芽細胞の分化メカニズム」「骨免疫システム」「歯周病発症メカニズム」などの基礎研究は、世界をリードする分野であり、多くの優秀な若い研究者は、日本の歯学部における貴重な宝です。歯科基礎医学会ホームページに「注目の歯科基礎医学研究者！」のコラムが掲載中です。是非、ご覧になってください。

日本のオーラルバイオサイエンス研究が今後一層世界に羽ばたくものに発展していくことを信じています。そして、この研究活動の進展こそが、歯学部および歯学教育活動の発展に寄与することは言うまでもありません。

歯科医師減少時代の到来

厚生労働省の「医師・歯科医師・薬剤師統

計」によると、2022年、日本の歯科医師数が初めて減少しました。全国の歯科診療所数は、2016年をピークに減少の一途です。2021年のデータによると、東京都・千葉県・神奈川県・福岡県においては、歯科診療所の開設数は廃止数を上回っていますが、長野県をはじめとする地方はマイナスです。長野県における歯科医師の平均年齢は60才を超え、全国平均と比較して超高齢化しています。長野県の無歯科医地区は増えており、その人口は1万人以上と深刻化しています。つまり、歯科医師の減少は、地方における歯科医療に今後大きな打撃を与えるのです。

本邦における2040年問題とは、経済停滞の中で、2025年から2040年という僅か15年間において、現役人口（20歳～64歳）が約1,000万人も減少するという大問題です。このような状況で、1974年頃から現在に至るまで50年間、国民医療費は増加の一途ですが、全医療費に占める歯科医療費の割合は減少の一途であるという現実があります。しかしながら、1996年から15年間にわたり横ばい状態であった歯科診療医療費は2011年から年々増加しています。今後は「歯周病の予防・治療が全身疾患を予防し、医療費の抑制に直結する」というエビデンスを基盤として、「健康寿命の増進・医療費抑制に寄与する領域」として歯科医療費の増大が可能となります。高橋英登先生率いる日本歯科医師会をはじめ歯科界が一団となり更なる理論武装による活動が期待されます。

歯科医療の明るい未来を目指して

メタボリックシンドロームを惹起する各種の生活習慣病が問題となっています。生活習慣の乱れがドミノ倒しのように次々と様々な疾患（糖尿病・心臓血管疾患・慢性腎臓病・アルツハイマー病など）を発症させ、最後は誤嚥性肺炎を惹起し生命を奪う状態をメタボリックドミノと提唱されています。骨粗鬆症や歯周病の予防・治療は、これらのメタボリックドミノを上

流で食い止めることができる唯一のポイントであることが証明されています(図1)。

田口 明(松本歯科大学教授)らによる研究結果によると、定期的な口腔衛生管理の下で骨粗鬆症治療薬(ビスホスホネート)を使用した場合、歯周病発生率のリスクが大幅に低下することが示されています(図2)。

内閣府による「経済財政運営と改革の基本方針2024」(骨太方針2024)では、「医科歯科連携・多職種連携」に取り組む政府の指針がさらに一層強く表明されました。すなわち、「全身の健康と口腔の健康に関する科学的根拠の活用」「国民皆歯科健診の具体的な取組推進」「オーラルフレイル対策」「歯科衛生士・歯科技工士等の人材確保」「歯科領域におけるICTの活用の推進」「有効性・安全性が認められた新技術・新材料の保険導入」などです。従来の歯科医療から「口腔機能管理型歯科医院」へのシフトが必須であり、歯科界の大きな発展のターニングポイントでしょう。今こそ、歯科医師を志望する優秀な若者を増やすことが急務です。

おわりに

歯科医師・歯科医療の社会的価値は高まっています。今後さらに、口腔管理の重要性がクローズアップされてくるでしょう。本学では、障がい者施設への訪問歯科診療の先駆者としてこの分野を牽引してきた笠原 浩特任教授(87才)が現役歯科医師として現在も診療・教育活動を担っています。今後、要介護高齢者への訪問診療体制の強化、市役所・保健所や総合病院への歯科医師および歯科衛生士の配置は喫緊の最重要課題です。

以上のように、日本の未来を左右する歯科医師という尊い職を目指す若者を育てるため大学教育に従事している我々の任務は重要です。誇りを持って歯学部での教育・研究・診療活動に精進したいと思う今日この頃です。



図1 歯周病の予防・治療によるメタボリックドミノのストップ

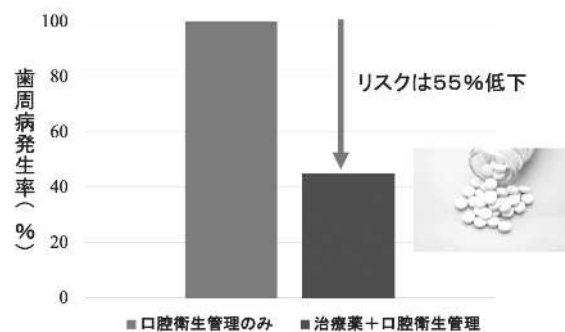


図2 骨粗鬆症治療薬は歯周病発生リスクを低下させる(2年間のランダム化比較試験)

〈筆者の略歴〉

- 1981年 3月 獨協高等学校卒業
- 1987年 3月 松本歯科大学歯学部卒業
- 1987年 6月 昭和大学歯科病院第2口腔外科前期助手
- 1992年 3月 昭和大学大学院歯学研究科歯学専攻博士課程修了
- 1994年 9月 メルボルン大学セントビンセント医学研究所研究員
- 1996年 10月 昭和大学歯学部口腔生化学講座講師
- 2001年 9月 松本歯科大学生化学講座教授(現在に至る)
- 2002年 米国骨代謝学会 ASBMR Fuller Albright Award 受賞
- 2002年 日本骨代謝学会学術賞受賞
- 2005年 歯科基礎医学会ライオン賞受賞
- 2015年 日本再生医療学会再生医療認定医(現在に至る)
- 2018年 松本歯科大学歯学部長(現在に至る)
- 2021年 日本歯周病学会理事(現在に至る)
- 2022年 歯科基礎医学会理事長(2024年10月まで)

大学のニュース

■北海道医療大学歯学部■

イエテボリ大学 Sahlgrenska Academy を表敬訪問しました

2024年3月12日に、古市歯学部長と江本医療技術学部講師がイエテボリ大学のSahlgrenska Academyを表敬訪問し、Jenny Nyström アカデミー長およびMagnus Simrén 副アカデミー長との会談を行いました。

会談では、高齢化社会における多職種連携医療の重要性、交換留学研修など学生の国際交流事業への参加の意義とその重要性、そして交流の継続と更なる発展の可能性について意見交換が行われました。

Sahlgrenska Academy は、スウェーデンのGothenburg University (イエテボリ大学) に所属する医療系および生命科学系の6つのInstitute (学部) が集合して形成される高等教育機関です。2015年に同アカデミー歯学部と本学歯学部との間で教育・研究に係る連携協定を締結し、歯学部間および同歯学部口腔衛生学科と本学歯学部附属歯科衛生士専門学校とで短期学生派遣交流を継続して行っております。

また、2023年9月には、同アカデミーのBiomedicine学部と本学医療技術学部との間で学部間連携協定を締結致しました。

今回の同アカデミー訪問は、本学学生(歯学部学生1名・医療技術科学研究科大学院生1名及び医療技術学部学生1名)が参加した同校の短期研修(2024年3月11日～15日)の際に同行して行われました。

北海道医療大学ホームページトピックス
(2024年4月2日掲載)

「薬剤師・歯科医師インターンシップ in 沖縄」を開催しました

2024年3月16日(土)～3月30日(土)までの期間で、薬剤師および歯科医師のインターンシップを沖縄県にて実施しました。沖縄県内の複数の高校から合計21名の高校生にご参加いただきました。沖縄県には、薬学部および歯学部を擁する大学がなく、高校生が薬剤師・歯科医師の職業を体験し、進路の決定に役立てる機会を広く提供するため、(株)ケイオーパートナーズ様(企画運営)、沖縄で開業する薬学部・歯学部の同窓生(実習の実施)、そして本学の現役の薬学部・歯学部の学生(大学生活の相談および実習補助)が協力し、事前学習(3月16日)、本実習(3月23日(薬学)、24日(歯学))、

事後学習(3月30日)の3段階で開催いたしました。

事前学習では、「発見ノート」を使い、今回のインターンシップを受講するための目的の確認と動機づけを行いました。また、沖縄県出身の本学在学学生(薬学部3名、歯学部1名)も討論に参加し、多くの質問を受け、参加した高校生の薬学・歯科への関心の高さを感じました。

インターンシップ本実習では、本学卒業生で現役の薬剤師および歯科医師が、実際の仕事内容を具体的に説明し、高校生に調剤および歯科治療をシミュレーション体験していただきました。参加した高校生のみなさんはとても興味深そうに、また楽しそうに体験していました。インターンシップ本実習においても、沖縄県出身の在学学生(薬学部2名、歯学部2名)がサポートとして参加し、この体験を通しての疑問や大学生活のことなど、事前学習同様に数多くの質問を受けていました。

北海道医療大学ホームページトピックス
(2024年4月16日掲載)

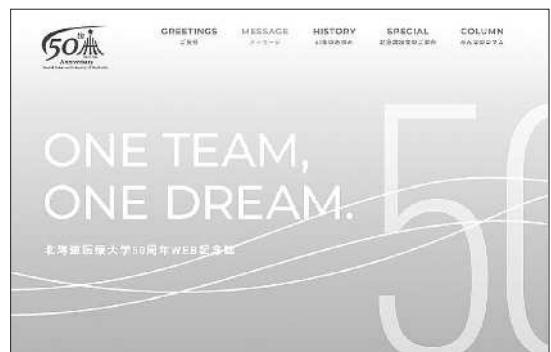
北海道医療大学は創立50周年を迎えました

1974年に創立した北海道医療大学は、おかげさまで2024年に50周年を迎えました。

本学は、創立以来、建学の理念「知育・徳育・体育、三位一体による医療人としての全人格の完成」に基づき、保健・医療・福祉の連携統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人の育成に努めて参りました。現在は2万4千名を超える卒業生を輩出しております。

このたび、創立50周年を記念してWEB記念誌を発行いたしました。これまでの足跡をたどる「50年のあゆみ」、卒業生や学生・教職員からのご寄稿による「みんなのコラム」のほか、コンテンツを随時追加して参りますので、ご覧いただければ幸いです。

北海道医療大学ホームページトピックス
(令和6年4月30日掲載)



■ 岩手医科大学歯学部 ■

高大連携ウィンターセッションが行われました

12月25日(月)・26日(火)の2日間、矢巾キャンパスにおいて、いわて高等教育コンソーシアムと岩手県教育委員会が主催する高大連携ウィンターセッションが行われました。

このイベントは、県内の高校生が県内各大学の教育・研究内容に触れる機会をつくり、各大学で学ぶことができる内容を広く知ってもらうことを目的として平成15年から開催しています。

本学では医・歯・薬・看護学部がそれぞれ講座を開講し、82名の受講者が講義や実習を体験しました。



講義・実習の様子

岩手医科大学報 vol.551 (令和6年1月発行)

内丸メディカルセンター体験ツアーが行われました

1月6日(土)、内丸メディカルセンターにおいて、県内の小学生・中学生を対象にした冬休み内丸メディカルセンター体験ツアーが行われました。当センターの様々な仕事や活動内容を紹介し、見学・体験を通じて医療の現場を知ってもらい、当センターの機能や役割、魅力を発信し、病院の仕事に興味・関心をもってもらうことを目的に開催され、保護者を含め31名が参加しました。

当日は、センターで働く職種の紹介、センター内のツアーなどが行われ、参加した小学5年生の児童は「医療



ロビーで説明を受ける参加者

の最前線で働いている大人たちはとてもカッコいいと思いました。将来、人のために役立つ仕事に就きたい」と目を輝かせていました。



臨床検査技師の指導によるエコー体験



看護師の指導による手術着の着衣体験

岩手医科大学報 vol.551 (令和6年1月発行)

最終講義が行われました

3月1日(金)、大堀記念講堂において、3月31日付をもって定年退職される教授の最終講義が行われました。

聴講者は、各教授によるスライドや在職中のエピソードなどを交えた熱心な講義に耳を傾け、名残を惜しまました。講義終了後には、職員や学生から各教授に花束が贈呈され、惜しめない拍手が送られました。



左から：人見教授、諏訪部教授、福島教授、小笠原教授、菖蒲澤教授、遠藤教授、相澤教授

岩手医科大学報 vol.552 (令和6年3月発行)

4学部合同セミナーが行われました

4月20日(土)、矢巾キャンパスにおいて、4学部合同セミナーが開催されました。この科目は、4学部最終学年の必修科目で専門職連携教育の集大成として位置づけられ、事前に提示された症例を複数の学部の混成チームによりPBL(問題基盤型学習)形式で検討するものです。

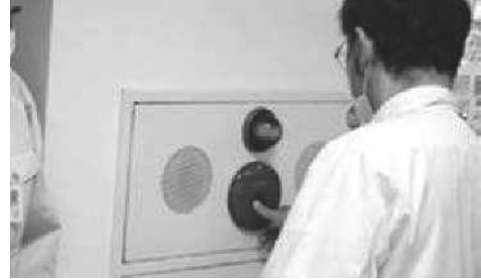
当日は、チームで患者さんへの治療方針等について議論し、インフォームドコンセントを想定して患者さんへの説明内容を検討しました。専門知識を修得した学生が患者さんの立場に立ち、他学部の学生と共に治療方針の検討を行うことで、医療現場における多職種連携の重要性について理解を深めました。



チーム作業(事前学修の内容プレゼン)

岩手医科大学報 vol.553 (令和6年5月発行)

との想定に基づき、通報・避難・消火の訓練を実施した。臨床講義室北側5階に設置している垂直式救助袋を利用した避難では、参加者が積極的に脱出の訓練にあたった。また、消火訓練では、新人歯科衛生士らが屋外で実際に放水を行い、消火に必要なスキルを体得した。



真剣に訓練に臨む教職員



消火器を使った訓練をする教職員

奥羽大学報 176号 (No.301) (令和6年3月発行)

■ 奥羽大学歯学部 ■

SD 研修会

2023年度第2回SD研修会が、11月17日(金)17:15から17:45までZoomを用いたオンライン形式で開催された。講師は本学歯学部の佐藤歩講師で、「学生対応に関わるハラスメント」と題した講演であった。佐藤講師からハラスメントの基本的な知識だけでなく、未然に防ぐための具体的な対応方法について説明していただいた。

ハラスメントは近年問題視される人権侵害であり、本学においても、いかなるハラスメントも容認されない。今回の研修会は、教職員一人ひとりが言動を振り返る機会となり、また学生に対し理不尽な叱責等を行わないための心構えを学ぶことができ、大変有意義なものであった。

奥羽大学報 176号 (No.301) (令和6年3月発行)

附属病院 自衛消防訓練

昨年12月12日(火)、自衛消防訓練が附属病院で実施され、新規採用の教職員を中心に学内外の約40名が参加した。「15:40頃、病院棟4階東側総合歯科診療室付近から火災が発生し、5階に2名逃げ遅れた者がいる」

仙台国際ハーフマラソンへの 学生ボランティア参加

5月12日(日)に行われた東北最大のマラソン大会「仙台国際ハーフマラソン」に、本学のライフサポート部が救護ボランティアとして参加した。コロナ禍で活動できなかった時期を経て、久々のボランティア参加になるため、今回は本学の教員になっているライフサポート部のOB/OGも一緒に参加した。当日は晴天のため、ランナーが脱水などで救護を必要とする中、医師、看護師、他大学の学生ボランティアなどとともに救護に当たる中で新たな絆も生まれ、参加者はやりがいや手ごたえも感じ取ることができ、以前より活気や笑顔が戻ってきたように感じられた。



ライフサポート部のメンバー

奥羽大学報 177号 (No.302) (令和6年6月発行)

2024年度第1回FD研修会の開催

本学教員を対象とした2024年度第1回FD研修会が、6月7日(金)の午後5時15分から開催された。講師は、自治医科大学医学教育センター特別教授の岡崎仁昭博士で、「医学教育センターにおける医学教育への取組み」という題で講演が行われ、175名の教員・大学院生・臨床研修歯科医が参加した。

自治医科大学は、優れた医学教育を実施していることで全国的に評価の高い医科大学であり、特に医師国家試験合格率は、2023年度も100%という素晴らしい成果を上げている。講演の中で、自治医科大学で行われている様々な教育的取り組みが紹介された。学生の学力を向上させるために自治医科大学の教員の方々が強い熱意を持って教育を行っていることがよく理解でき、国試100%合格は決して偶然ではなく、当然の結果であることが実感できる内容であった。



熱心に話を聞く参加者

奥羽大学報 177号 (No.302) (令和6年6月発行)

■ 明海大学歯学部 ■

歯学部交換研修

アメリカの協定校3校から 研修生が来学

歯学部では国際未来社会で活躍し得る歯科医師を育成するため、海外協定校との相互交流に力を入れている。中でも交換研修プログラムは大きな特色のひとつ。学生のうちから諸外国の歯科医学の現状を学ぶことができる海外研修制度を設けるとともに、研修に参加した学生が海外から研修生を迎え入れることで、継続的かつ相互的な交流が実現できるプログラムとなっている。

3月にはアメリカの協定校3校から研修生を受け入れ、交流を図った。研修生らは附属病院の見学や本学教員による講義を受講し、日本の歯科医療の現状への理解を深めた。また、テキサス大学サンアントニオ校からの研修生らは、3月14日に開催された本学の学位記授与式に参列し、同校を代表して登壇したトレイシーミシェルコーワン先生がピーター・ルーマー歯学部長からの祝辞

を読み上げた。研修期間中は、昨年8月に各大学で行われた研修に参加した本学学生が、世話役を務めており、学生同士の交流も活発に行われ、実りある研修となった。



本学の臨床技術を体験する
テキサス大学サンアントニオ校の研修生たち

国名	大学名	日程	人数
	テキサス大学サンアントニオ校	3/13～16	研修生10名、インストラクター2名
アメリカ	アラバマ大学バーミングハム校	3/19～22	研修生10名、インストラクター2名
	カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)	3/22～26	研修生9名、インストラクター2名

MEIKAI NEWS LETTER 第254号 (令和6年4月発行)

【さくらサイエンスプログラム】 檀国大学校(韓国)からの研修生 受け入れレポート 第2弾

12月17日から23日まで、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が行う国際青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプログラム」として、檀国大学校(韓国)からの研修生(学部生4名、大学院生2名、教員1名)の受け入れを行いました。

研修テーマ「歯科衛生士の高齢者摂食嚥下リハビリテーションと医科歯科連携のプログラムの体験」に基づき、学内実習として「嚥下調整食調理実習」「シミュレーターを用いた鼻腔・咽頭吸引実習」「高齢者体験実習」を行うとともに、坂戸キャンパス(歯学部)での付属病院見学および学外の歯科関連企業やがん専門病院訪問で日本の歯科医療に関する知識を深めました。



実習



さらに、研修期間中には宮田淳理事長、中嶋裕学長や藤内祝保健医療学部長をはじめとする本学教員との懇親会の開催や、学内実習でのサポート役を務めた保健医療学部生との交流の機会が設けられるなど、相互の親交を深め、今後の両大学の一層の友好発展を祈念する機会となりました。



坂戸キャンパス訪問



懇親会等

明海大学ホームページ（令和5年12月掲載）

ウェスタンケープ大学(南アフリカ共和国)の学生らが坂戸キャンパスを訪れました

2月14日、姉妹校の朝日大学が招聘する「さくらサイエンスプログラム」の一環として来日している、本学海外協定校・南アフリカ共和国のウェスタンケープ大学（学生8名、教職員3名）およびハリヴ・ジェッピー駐日南アフリカ共和国大使館公使（科学イノベーション教育担当）が坂戸キャンパスを訪れました。

中嶋裕学長、申基喆歯学部長と懇談の後、研修生一行は歯学部附属病院の見学を行い、ジェッピー公使のほか、田中大輔科学技術担当リエゾンオフィサーもご同行されました。

明海大学は建学の精神に則り、国際未来社会で活躍する人材の育成に努めてまいります。

（さくらサイエンスプログラム）

国立研究開発法人科学技術振興機構が実施するプログラムで、新たな時代の社会を担う、世界の優れた人材を日本に短期間招き、日本の最先端な科学技術や文化に触れてもらうもの。





明海大学ホームページ（令和6年2月掲載）

メキシコ州立自治大学(UAEM) 創立60周年記念事業にて歯学部の 坂上教授が招待講演を行いました

3月14日から16日に、明海大学と本学姉妹校の朝日大学が国際交流を行っているメキシコ州立自治大学(UAEM)において、60周年記念事業が開催されました。本学からは坂上宏教授が出席し、「強力な抗口腔癌、抗HIV、抗UVC活性を示す天然有機化合物の同定と、アルカリ抽出液の抗炎症効果」と題し、招待講演を行いました。

メキシコ州立自治大学歯学部には、1985年に本学創立者の宮田慶三郎先生が研究所を寄贈しており、当研究所は「宮田慶三郎リサーチセンター」と名づけられ、当時、メキシコではほぼ行われていなかった歯科の基礎研究の緒となる施設で、現在はメキシコを代表する研究所となっています。

また、1989年には本学歯学部と海外初の姉妹校として協定を締結しています。

本学とUAEMは今後もそれぞれの国・大学の歯科医療の強みを共有し、学術・文化的友好関係をさらに発展させていきます。



式典の様子



宮田慶三郎リサーチセンター

明海大学ホームページ（令和6年3月掲載）

東京歯科大学

東京歯科大学リカレント 教育セミナー開催

2024年3月3日(日)午後1時より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて、東京歯科大学リカレント教育

培養口腔粘膜の角膜移植への応用 山口剛史教授 (市川総合病院眼科)
 掌蹠膿疱症患者における口腔内細菌と口腔内サイトカインの解析研究 河野通良准教授 (市川総合病院皮膚科)
 インプラント周囲軟組織の遺伝子解析からインプラント周囲炎の予防へ 佐々木穂高教授 (口腔インプラント学講座)
 口腔粘膜の機能: Revisiting 澁川義幸教授 (生理学講座)
 局部床義歯の印象採得における顎堤粘膜の被圧変位に対する考え方 田坂彰規准教授 (パーシャルデンチャー補綴学講座)
 インプラントオーバーデンチャー (IOD・IARPD) における顎堤粘膜被圧変位特性の捉え方
 藤関雅嗣臨床教授 (水道橋病院補綴科/藤関歯科医院・院長)

シンポジウムでの演題および演者

セミナー「今どきの目で口腔粘膜を見直そうー口腔粘膜からみる医科との診療連携と歯科診療ー」が、東京歯科大学同窓会の共催のもと開催された。東京歯科大学研究プロジェクト(ウェルビーイングプロジェクト)では、顎骨疾患プロジェクト(2017~2022年度)から引き続き、大学と同窓会を中心としたリカレント教育セミナーを開催している。本教育セミナーは、基礎と臨床のそれぞれの立場から最新の知識を学べる双方向性の情報交換の機会を設け、進歩する研究と医療技術に対応し、日々の臨床と研究活動に還元することを目的としている。

今回は、片倉 朗副学長により「口腔粘膜」に関するシンポジウムが企画され、本領域における基礎と臨床のエキスパートによる講演が行われた。一戸達也学長と富山雅史同窓会長による開会の辞の後、片倉副学長よりシンポジウムの目的と概要の説明があった。引き続き、座長の菅原圭亮准教授と田坂彰規准教授による進行のもと上記の講演が行われ、活発な質疑応答が繰り広げられた。

総合討論ではさらなる意見交換がなされ、山本 仁副学長による閉会の辞で会が締めくくられた。参加者120名以上(会場とオンラインの合計)と大盛況であり、日常臨床のさらなる発展と大学における新たな研究シーズの創生が期待できる有意義なりカレント教育セミナーとなった。



座長の田坂准教授、菅原准教授(左から)



演者の山口教授、河野准教授、佐々木教授、澁川教授、藤関臨床教授(左から)

東京歯科大学広報 第 313 号 (令和 6 年 6 月発行)

第 5 回東京大学・東京歯科大学 合同研究報告会開催

2024年3月26日(火)午後3時より、水道橋校舎本館西棟ラウンジにおいて、第5回東京大学・東京歯科大学合同研究報告会が開催された。本報告会は、東京歯科大学研究プロジェクト(ウェルビーイングプロジェクト)における若手・次世代研究者育成の取り組みの一環として開催され、本学および東京大学口腔顎顔面外科・矯正歯科に在籍する若手研究者が、日頃の研究成果を披露した。

本研究報告会は、2019年度の顎骨疾患プロジェクトにおける開催を皮切りに、今回で第5回を迎えた。新型コロナウイルス感染症のまん延防止の観点から第2回目以降はオンライン開催であったが、今回は念願の対面開催となった。

口腔科学研究センターの山口 朗客員教授による開会の辞の後、本学薬理学講座の高橋有希講師と東京大学の小野紗也加先生が座長を担当し、以下の若手研究者によ



一戸学長の挨拶



富山同窓会長の挨拶

る発表が行われ、活発な質疑応答が繰り広げられた。

研究報告会の最後は、片倉 朗副学長と東京大学の星 和人教授による閉会の辞で締めくくられた。報告会の後は懇親会が開催され、両校の若手研究者のさらなる交流を深めることができた。次世代研究者のさらなる躍進が期待できる有意義な合同研究報告会となった。

【本学からの発表者】

千代侑香大学院生……………ミトコンドリア外膜分子
TSP0 による T 細胞応答の
制御

立澤孝太郎大学院生……………口腔外科における Digital
Transformation : 私たちの取
り組みと展望

徳山彰秀大学院生……………顎骨内新規幹細胞画分発見へ
の道のり

【東京大学からの発表者】

久保田恵吾先生……………腫瘍関連マクロファージの分
子機構から推察した再生医療
とマクロファージの関係

小野紗也加先生……………骨代謝ネットワーク in vitro
再構築系を用いた骨吸収抑制
剤の骨リモデリングに対する
影響の時空間的解析

清水玲那先生……………AI を用いた軟骨細胞の純化
分離方法の検討

演者と演題

東京歯科大学広報 第313号 (令和6年6月発行)

東京歯科大学口腔がんセンターにて 歯科大学で全国初の口腔がん光免疫 治療が実施される

2024年4月3日(水)、東京歯科大学口腔がんセンターにおいて、切除不能口腔がんに対する新規治療である光免疫治療(アルミノックス治療)が、歯科大学としては日本ではじめて行われた。

本治療は薬剤と光を組み合わせたまったく新しい概念の口腔がん治療であり、2023年12月に歯科口腔外科領域で保険収載された。実際の手技としては、光増感剤を結合させた分子標的治療薬であるセツキシマブ-サロカロタンナトリウムを前日に点滴静注し、翌日、腫瘍周囲から中心部にかけて専用のニードルカテーテルを複数本穿刺し、690nmのレーザー光を照射する。これによりレーザー光と薬剤に含まれる色素が反応し、がん細胞の膜が破壊され、がん細胞が死滅する。本治療を行った後は光過敏症を生じる可能性があるため、直射日光が当た

らないよう半暗室管理が必要となる。また、照射後の一時的な疼痛や気道浮腫による気道閉塞への対応が必要なため、事前に病棟、手術室、麻酔科および院内関連各科との複数回にわたる綿密なシミュレーションとリハーサルが行われた。このような各科との緊密な連携のもと、今回の治療実施が実現した。

本治療は、これまで治療の手立てがなかった再発患者に対する画期的治療であり、新たな口腔がん治療の選択肢を得ることができた。口腔がんセンターでは、今後も新規治療を積極的に取り入れ、高い水準で口腔がん治療を提供していく。



口腔がんセンター歯科医師、歯科麻酔科医、病棟、ICU、手術室の看護師、臨床工学士による合同治療リハーサル中の様子



治療直前の光照射部位について、頭頸部アルミノックス治療運営委員会から派遣された頭頸部外科指導医とともに最終的な穿刺、刺入部位を確認している様子



ニードルカテーテル挿入前、シリンドリカルディフューザーをキャリブレーションした後の様子



ニードルカテーテルを挿入し、腫瘍内部にレーザー光を照射している様子

東京歯科大学広報 第313号 (令和6年6月発行)

■昭和大学歯学部■

「昭和大学」から「昭和医科大学」へ校名を変更

このたび、昭和大学は、医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部を擁する医系総合大学であることを校名からも発信し、社会に貢献できる優れた医療人を育成する大学として更なる発展を目指すため、令和7年4月1日に昭和医科大学へ校名を変更することといたしました。

*現在の校名：昭和大学 (Showa University)
*変更後の校名：昭和医科大学
(Showa Medical University)

SHOWA UNIVERSITY NEWS (昭和大学新聞)
第620号 (令和6年7月発行)

昭和大学メディカルデザイン研究所 開所式を開催

学校法人昭和大学は、学校法人多摩美術大学との包括連携協定に基づき「昭和大学メディカルデザイン研究所 (Institute of Medical Design 【IMD】)」を設立し、2024年5月27日に横浜キャンパスにて開所式を開催しました。

昭和大学メディカルデザイン研究所は、昭和大学と多摩美術大学で教授を務める安次富隆所長のリーダーシップのもと、両大学に蓄積された知恵と経験を活用することで「医術と美術の連携による医療現場のQOLの向上」に資することを目的として設立されました。

2024年5月27日に開催した開所式には、本学の関係者および多摩美術大学の関係者が出席しました。冒頭、学校法人昭和大学 小口勝司理事長は「お互いに持っているものを出し合えば新しい文化を創造できるのではないかと思います、本学の研究所として創設しました。両大学が協力して運用できればと思っています。それは、新しい大学の在り方の志向になるのではないかと思います。今後の研究所の発展を強く願います」と挨拶しました。また、昭和大学 久光正学長は「本学では職種を越えたチーム医療教育が実践され、成果を上げています。両校の知恵、技術を組み合わせ新たな研究分野の可能性を模索し、患者・医療従事者にとってより良いデザインが生まれる、このスタートに皆が期待しています」と、この研究所への思いを述べました。多摩美術大学 内藤廣学長からは「医療とデザインが手を結び合い、新しい未来を切り開くのは初めての取り組みです。必然の課題にいよいよ取り組めることは大変な刺激になります。新しい

領域を切り開く努力をしまいたい」との挨拶がありました。

安次富所長による研究所の説明では「昭和大学においては医療の分野を専門とする方々が教育・研究・診療に取り組んでいますが、飲みやすい錠剤形状の研究や、医療技術習得に関する教育プログラムの構築など、ご自分では気づかないうちにデザインを行っています。今後、医療とデザインの専門性の融合と相乗効果により、新しい価値を生み出していきたい」と抱負を述べました。

※学校法人昭和大学と学校法人多摩美術大学は包括連携協定を締結しています。

※令和6年4月1日、昭和大学は、クロスアポイントメント制度により多摩美術大学プロダクトデザイン専攻 安次富隆教授を昭和大学メディカルデザイン研究所教授として採用しました。

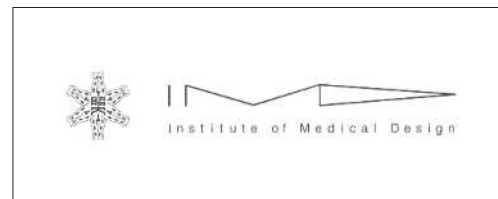
■昭和大学メディカルデザイン研究所の概要

—医術と美術の連携から、医療現場のQOLを目指す—

病院内における様々な案内、照明、待合室などのデザインを工夫することで、来院される方に安心感とリラックスできる環境を提供することや、病衣や医療従事者のユニフォームなどを機能性だけでなくファッション性も考慮し、患者さんや医療従事者のQOLの向上を図ります。

このほか、包括連携協定を締結している多摩美術大学の多種多様な工作機械を活用し、患者さん一人ひとり一人にあった自助具や外科医が自作する治具などを製作することを計画しています。

医術をデザインで支え、誰もが創造的で心身とも健康になれる場づくりを目指します。



昭和大学メディカルデザイン研究所 (IMD) ロゴ



学校法人昭和大学 小口勝司理事長の挨拶



昭和大学 久光正学長の挨拶



多摩美術大学 内藤廣学長の挨拶



安次富所長による研究所の紹介

SHOWA UNIVERSITY NEWS (昭和大学新聞)

第620号 (令和6年7月発行)

JAXA と宇宙医科学研究をスタート

昭和大学の茶谷昌宏准教授（歯学部歯科薬理学講座 / 薬理科学研究センター）による宇宙医科学研究が4月4日、JAXA 宇宙科学研究所 2024年度フロントローディング研究に採択されました。この研究は、重力や宇宙放射線が生命に与える影響を解明し医学への応用を目指すものです。昭和大学などの研究チームは、この研究をスタートし、宇宙環境での実験を目指します。本研究から得られた成果により、人類が宇宙に進出する際の健康管



茶谷昌宏准教授

理への貢献や、新しい生命原理の発見が期待されます。

SHOWA UNIVERSITY NEWS (昭和大学新聞)

第620号 (令和6年7月発行)

■ 日本大学歯学部 ■

沖縄県歯科医師会会長の表敬訪問

沖縄県歯科医師会の米須敦子会長が、令和6年2月2日に飯沼利光歯学部長を表敬訪問されました。米須会長は県歯科医師会長としては、日本初そして唯一の女性歯科医師会長であります。

平成26年より歯科麻酔科は歯科麻酔科OBを中心に、厚労省、沖縄県、沖縄県歯科医師会の共同事業である障害者に対する全身管理を年に数回担当してきました。また摂食機能療法科は、毎年沖縄県歯科医師会で、沖縄県障害者歯科地域協力医研修会を行い、地域協力医の育成に貢献しております。

米須歯科医師会長からは、これまでの日本大学歯学部の協力に謝意を述べられ、また一層の協力を求められました。

飯沼歯学部長からは、以前「沖縄県無歯科医地区等における歯科巡回診療事業」に歯科医師として1か月滞在していたこと、また沖縄在住の歯学部OBについてなど、沖縄と日本大学歯学部の繋がりについて話をされました。また、歯学部内での女性歯科医師の育成および登用をより積極的に行う方針であることを話されました。さらに、「日本大学歯学部はもとより、必要に応じて他学部にも働き掛け、沖縄県歯科医師会との協力を推進したい」と述べられました。



桜歯ニュース 第222号 (令和6年4月発行)

■ 日本大学松戸歯学部 ■

新校舎「50周年記念棟」使用開始

2024（令和6）年4月、新校舎「50周年記念棟」の使用を開始しました。新しい校舎には教育・研究・管理の場としての中核を担う機能を集約しました。

特にラーニング・コモンズは能動的な学修環境の中心として機能し、記念講堂は式典や学会などに幅広く利用できます。



50周年記念講堂



ラーニング・コモンズ



学生自習室



第1～4実習室

現在、学部ホームページにて50周年記念棟の紹介動画を掲載しています。

正面入口の広々とした「エントランス」に始まり、「50周年記念講堂」、「学生自習室」、「実習室」等、建物内の施設を順番にご案内していきますので、ぜひご覧ください。



松戸歯ニュース 第186号（令和6年4月発行）

新病院長に内田貴之教授が就任



日本大学松戸歯学部附属病院 病院長 内田 貴之

2024（令和6）年4月1日付けで、母校である日本大学松戸歯学部の附属病院の病院長を拝命いたしました。この重要な役割を担うことを光栄に思うとともに、重大な責任を深く感じております。

私は1988年、松戸歯学部12期生として卒業し、当時の口腔診断学講座（現歯科総合診療学講座）に入局しました。その後、附属病院では旧口腔診断科で（その後、初診科、現在は総合歯科診療科に名称変更）初診患者さんのプライマリーケアを担当するとともに、顎関節咬合科、口・顔・頭の痛み外来での診療を通じて、地域の患者さんの健康を支えて参りました。また、附属病院での教育や運営に係る委員会活動を経て、昨年度は副病院長として平山聡司前病院長、山口秀紀副病院長とともに病院運営に携わり、今年度から病院長を拝命する運びとなりました。

本附属病院は、2021年から河相安彦元病院長の発案により、治療優先であった病院機能を、歯科疾患は将来にわたる慢性疾患と捉えた病院組織へと組織改編を進めております。また従来からの歯科部門だけでなく医科部門を充実させ、医科病院としても患者さんへの対応を可能としています。また、日本の高齢化率の上昇とともに増えている通院が困難になった患者さんに対して、訪問診療を充実させ十分な対応ができるよう尽力しております。

さらに、本附属病院は教育・研修機関として、将来の歯科医療に貢献しうる歯科医師を養成するという重要な使命を担っています。このため優れた医学的知識、コ

コミュニケーション技術、そして倫理的、法的理解を備えた歯科医師の養成に努めています。また松戸歯学部は教育理念である「医学的歯学」を實踐し、地域医療と地域保健に貢献することで、口腔と全身の健康の維持と増進に寄与することができる歯科医師の養成に努めています。

学部設立時から使用してきました旧病棟から病院設備を新しい病棟に2006年に移設後、すでに17年が経ち、移設した病棟の設備も一部に老朽化が始まっています。使用している方々の努力により、病院内は設備を含めて非常にきれいな状態を未だ保ってはいますが、多くの器械に故障が目立ってきました。今後は病院の保守にも配慮しつつ、患者さんが安心して受診できる環境を整えることが必要です。さらに病院の財政の安定化や全国の大学付属病院が直面している診療医員の減少など、多くの課題に取り組むため、教職員が丸となってこれらの問題に対処できるよう、病院長として全力を尽くす所存です。松戸歯学部関係者の皆様方に置かれましては、引き続きのご指導とご支援を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

松戸歯ニュース 第186号（令和6年4月発行）

■ 日本歯科大学生命歯学部 ■

■ 日本歯科大学新潟生命歯学部 ■

本学創立118周年式典 — 復活した式典・祝賀 —

本学の創立118周年記念式典は、6月1日の創立記念日に、約300名が参列して、東京富士見で挙行された。名誉博士号授与、永年勤続者表彰が併せて行われた。卒業50年・25年創立記念式典特別参列制度（ジュビリー5025）の校友多数も参列した。午後からは創立記念式典祝賀会が、ホテルメトロポリタンエドモントで開催された。

日本歯科大学創立118周年記念式典は、定刻午前11時、宇多美穂庶務部長が開式を宣し、築土神社の神職による神事が執り行われた。



久しく参列者が会場を埋めた記念式典（富士見ホール）

本学の118年にわたる歴史が祝詞の中で朗々と奏上され、中原泉理事長が神前に進みでて、玉串を奉奠すると参列者は二礼二拍手一礼をもって同拝した。

次に藤井一維学長、中原貴理事、蓮見壽伯理事、小林隆太郎理事、渡邊儀一郎校友会会長が玉串を奉奠し拜礼した。

神事を終えて神職が退場したのち、中原理事長が、創立118周年記念式典に立ち会えた喜びと誇りを語った。

式辞は、本年5月16日に「最高齢の歯科医師（男子）」として、ギネス世界記録に認定された山梨の渡邊悦郎先生（40回卒）の紹介にはじまり、メリーランド大学歯学部（前身は世界最古のボルチモア歯科医学校）のC・ストローラー歯学部長が、日本歯科大学は世界最大の歯科大学と認証した逸話を披露した。

ついで、本学の最古、最大、唯一、最多という四つの特色をあげ、五つ目の「最高」の歯科大学をめざすと宣言した。

ついで渡邊儀一郎校友会会長が祝辞を述べた。

ここで、名誉博士号授与式に移った。

中原理事長は、千葉大学医学部を卒業した小児科医で、歯科医学の祖であるP・フォシャール研究の第一人者の高山直秀先生を紹介し、先生の功績を披露した。

そして、中原理事長より高山先生に、第27号の名誉博士の学位記が授与された。このあと、高山先生は中原理事長が1984年当時、パリ大学からフォシャールの手稿全ページのコピーの提供を受けたことから始まった研究の経緯と協力を語り、謝辞とした。



名誉博士 高山直秀先生

つづいて、永年勤続者表彰に移る。20年勤続者22名、30年勤続者21名が呼びあげられ、20年勤続者を代表して水橋史教授（新潟・補綴）、30年勤続者を代表して五味治徳教授（東京・補綴）が、中原理事長より表彰状を授与された。表彰者を代表して五味治徳教授が謝辞を述べた。

おわりに、参列者全員で校歌を斉唱し、12時15分に閉式した。

このあと場を移して、13時よりホテルメトロポリタン エドモントにおいて、祝賀会が催された。

席上、藤井一維学長が創立118周年を祝って挨拶した。

日本歯科大学新聞 第692号（令和6年8月発行）

東京・新潟の新職員 記念碑と銅像を清拭

創立118周年記念日の前後に、両学部の新職員が記念碑と銅像の清拭を行った。生命歯学部では「日本歯科大学発祥の地」の記念碑を3名、新潟生命歯学部では「中原市五郎先生の像」を3名の新職員が入念に清拭した。

日本歯科大学新聞 第692号（令和6年8月発行）

■日本歯科大学生命歯学部■ ギネス世界記録認定

—最高齢の現役歯科医 99歳—

渡邊 悦郎先生（山梨県 40回卒）

山梨県の渡邊悦郎先生（40回卒）は、国際ギネス委員会より、5月16日にギネス世界記録に「最高齢の歯科医師（男子）」として認定され登録された。認定当時の年齢は99歳133日。このたび先生がギネスに認定されたのは、99歳で患者診療に当たっている現役の臨床医であるからである。



先生は、大正13年（1924）に生まれ、衛生兵として徴兵後、昭和22年に本学に入学されました。

卒業後、昭和28年に故郷の忍野村で開業され、以来、9800人の同村の唯一の歯科開業医として、70年間にわたって地域医療に尽力されました。

先生は、自宅の富士吉田から医院に通われ、数年前まで月曜日から金曜日の午前中に診療されました。3台の

ユニットは、フル回転だったそうです。現在は、月・水・金の3日間の午前中に、変わらず診療をつづけておられます。

先生が令和2年にだされた冊子『渡邊悦郎の軌跡』によれば、渡邊歯科医院の渡邊院長は、村のたった一人の歯科医師として、昭和・平成・令和の長い歳月を患者さんのために尽力されました。

「朝から晩までそれこそ時の経つのも気が付かないほど働きました。朝早くから順番待ちの患者さんが、入り口が開くのを待っている毎日でした。」

さらに先生は依頼されて、周辺の小・中学校などの健診に回りました。「忍野村周辺の3村の小・中学校、保育園の歯科校医として、年に1回「スーパーカブ」というオートバイで健診に駆け回っていました。生徒数が多くて、なんと忍野村の小学校だけでも600人、中学校は400人ぐらいいたもんですよ。」

先生は終戦後、吉田茂首相の主治医でもありました。「治療のときには公安関係者が歯科医院の周囲を調査し、当日は警察学校の学生40人ぐらいが全員警備に来る、という大変な状況でした。」

先生は生来頑健で、盲腸炎にかかったほかには、病氣らしい病気をなされたことがないそうです。

「子どもは娘ばかりで5人、孫が8人、ひ孫が4人います。幸い日々の暮らしに大きな支障はなく、妻も年相応の健康状態を維持しているので、医療人としての生活とともに、日々の生活をのんびりとおおらかに過ごしていければと思っています。」

先生の患者さんの一人で、85歳のおそば屋の店主は、「65年ずっと通院しています。先生のところで世話になったのは両親が先で、親子2代、さらに家族全員がお世話になっています。先生には、いつまでも健康でいてもらわないと困ります。」

「先生がいないと困る」という患者さんの切なる声です。

日本歯科大学新聞 第692号（令和6年8月発行）

口腔リハビリテーション多摩クリ ニック 菊谷院長

口腔リハビリテーション多摩クリニックの菊谷武院長は、昨年11月11日午前11時から30分間、BS日テレの密着ドキュメンタリー『幸せの記憶～食べるを支える歯科医』に出演し、多摩クリと同教授のふだんの診察活動を放映しました。

このドキュメンタリーは、本学附属病院の待合室に設置のモニターで、終日放映されています。

日本歯科大学新聞 第688号（令和6年2月発行）

日本矯正歯科学会理事長 新井一仁教授が就任

生命歯学部歯科矯正学講座の新井一仁教授は、2月29日に開催された日本矯正歯科学会理事会において、理事長に選任された。任期は2年。新井先生は、本学76回卒、埼玉県。

日本歯科大学新聞 第689号（令和6年4月発行）

筒井健機名誉教授 叙勲

本学の筒井健機名誉教授（元生命歯学部薬理学講座教授）は、令和5年秋の叙勲で瑞宝中綬章を受けた。

日本歯科大学新聞 第688号（令和6年2月発行）

■ 日本歯科大学新潟生命歯学部 ■

日本私立大学協会 小出局長が新潟来校

日本私立大学協会の小出秀文常務理事・事務局長が5月28日、財務部長、調査役を伴って、能登半島地震の見舞に、本学新潟生命歯学部を訪問した。

中原賢副学長・新潟生命歯学部長と親しく懇談した。

日本私立大学協会は、戦後の昭和21年12月に、東京の教校の私立大学によって創設された。本学の中原實理事長・学長は、創設メンバーの一人であった。中原学長は、昭和48年から55年まで同協会の会長をつとめた。

なお、新潟生命歯学部には大きな被害はなく、冬季休暇明けから通常通り授業、診察を再開した。

日本歯科大学新聞 第691号（令和6年6月発行）

■ 神奈川歯科大学 ■

横須賀ロータリークラブ主催 「10,000メートルプロムナード クリーン作戦」に参加

2024年3月10日(日)、横須賀ロータリークラブ主催の「10,000メートルプロムナードクリーン作戦」に、本学としては初めて教職員7名、歯学部学生14名、看護学科学生7名の総勢28名が参加しました。この活動は、大勢の仲間達と一緒にボランティア（社会奉仕）活動を実践し、新たな出会いや地域とのかかわりを実感し、社会への関心を深める中で地域社会貢献活動を推進していくことを目的に開催され、今年は15回目という節目の

年にあたります。

本学は、県立横須賀高等学校、緑ヶ丘女子高等学校、ガールスカウトの皆さんと共にヴェルニー公園を



スタートし、大滝町からYデッキ、横須賀海岸通りを練り歩きながらゴミを拾いました。日常の業務や学業とは異なる新鮮な活動で、目的が共有され自然と一体感が生まれました。普段あまり接しない歯学部と看護学科の学生同士の交流や他の参加者の方々との会話も生まれ、とても有意義な時間でした。ゴール地点の海辺つり公園には沢山のゴミ袋が集まり、達成感に包まれながら食べたおにぎりやスープの味は格別なものでした。



学校法人神奈川歯科大学新聞 第49号（令和6年5月発行）

第52回 神奈川歯科大学諸霊供養の会

汗ばむ陽気に包まれた2024年6月8日(土)、第52回諸霊供養の会を挙行いたしました。新型コロナウイルス感染症の影響で2年間は自粛、昨年は縮小開催だったため、本格的に執り行うのは4年振りとなります。今年度も、本学にご猷体を賜りました御霊と神奈川剖検センターにて法医解剖をさせていただいた御霊の合同慰霊祭といたしました。

当日は、櫻井孝学長、井野智病院長、菅原光則法人事務局長、天野カオリ教授、長谷川巖教授らを含めた教職員・学生253名と、ご遺族様、会員謙、ご来賓、その他



ご参列者を含め、400 名の方々にご参列を賜りました。

定刻の午後 1 時、山田良広教授の進行で式典は厳かに開会いたしました。井野病院長より令和 3 年度から 6 年度にかけてご献体を賜りました 78 名の方々の芳名が奉読され、その方々の名前が記された芳名帳を天野教授の手で、法医解剖の芳名帳を長谷川教授の手で、祭壇中央に奉納いたしました。参列者全員による黙祷の後、歯学部 3 年生小林梨沙さんよりご献体者とそのご家族への深い感謝の言葉が、櫻井学長より慰霊の言葉が述べられました。その後、参列者が献花としてカーネーションを捧げました。学生は 15 名が代表して行いましたが、凛とした立ち振る舞いで、とても美しい心こもった献花でした。最後に、解剖学分野を代表して天野教授より、神奈川剖検センターを代表して長谷川教授より挨拶が述べられ、午後 2 時 15 分に閉会いたしました。

4 年振りとなる多くの参列者を迎えての諸霊供養の会でしたが、無事に開催する事ができました。ご尽力を賜りました教職員皆様には、この場を借りて深く御礼申し上げます。

学校法人神奈川歯科大学新聞 第 50 号 (令和 6 年 9 月発行)

神奈川歯科大学附属 歯科・健脳クリニック日本橋 開院 1 周年

院長 河奈 裕正

国内デパート初の歯科大学附属クリニックを日本橋三越本店内に開院し、1 周年を迎えました。「健脳」が示すように、認知症を未病のうちに医科部門で診断し、歯科部門が歯周病や咬合のコントロールを徹底しながら未病をサポートしていくコンセプトでこれまで活動してきました。歯科部門独自の特徴は、日本歯科専門医機構や学会認定の専門医が数多く従事している点ですが、今年度はインプラント診療日を月、火、金、土に大幅拡大し、アドバンスなインプラント治療も含めて取り組んでいますので、OB の先生方におかれましては連携のご厚情をお願いできれば幸いです。医科と歯科とが両輪



となって、地域や国内外の医療に貢献してまいりますので、今後ともよろしくお願いたします。



学校法人神奈川歯科大学新聞 第 50 号 (令和 6 年 9 月発行)

安否確認システムを導入

地震や津波などの大規模災害時に、即座に教職員の安否確認を行うことを目的とした安否確認システム「i-Compass 安否確認」を本年 7 月より導入いたしました。

本システムは気象庁と連携しており、日本全国の震度 5 弱以上の地震および津波警報発生時に自動で安否確認メールが教職員へ配信され、教職員からの回答に基づく安否状況を円滑に、かつ迅速に把握することができます。7 月 11 日(木)にプレテストを実施しましたが、今後も災害発生時にスムーズな回答ができるよう、年に数回訓練メールを配信する予定ですので、引き続き教職員の皆様のご協力をお願いいたします。

なお、歯学部の学生は MyiD の緊急地震速報連動機能を利用した安否確認をすでに導入しており、年 1 回安否確認訓練を実施しています。また、短期大学部の学生は KDU ポータルサイトを利用して安否確認を行うようにしています。



i-Compass

MyiD

KDU ポータル

学校法人神奈川歯科大学新聞 第 50 号 (令和 6 年 9 月発行)

■鶴見大学歯学部■

鶴見大学 小林 馨名誉教授が 「日本歯科医学会会長賞」を受賞

小林馨名誉教授が令和5年度日本歯科医学会会長賞（教育部門）を受賞され、2月20日、歯科医師会館（東京都千代田区）にて表彰式が行われました。

この賞は、歯科会における研究部門・教育部門・地域歯科医療部門の各分野において、顕著な功績、歯科医学・歯科医療の向上に貢献した者に対して授与される、日本歯科医学会最高峰の顕彰で、毎年全国で7名以内が表彰されます。

目には見えない光を扱う「歯科放射線学」を通して、学生、教員、患者の心を読み、信頼性を重視した教育、研究、臨床の向上に貢献したことが高く評価されました。このことは、鶴見大学歯学部における教育、研究、臨床の質の高さを証明するものです。また、受賞者を代表して謝辞の挨拶もされ、「日本歯科放射線学会、日本顎関節学会を通して研究した内容を基盤とし、教育、地域歯科医療に貢献できたことが評価されました。今後も、歯科医学の発展に結びつけ、日本国民の健康の一助となるように努めます」とのお話をされました。

本学では、日本歯科医学会会長賞を教育部門で平成6年度 三浦不二夫客員教授、平成12年度 河野篤名誉教授、平成20年度 細井紀雄名誉教授、平成22年度新井高名誉教授、平成23年度 福島俊士名誉教授、平成30年度 桃井保子名誉教授、令和元年度 前田伸子名誉教授、研究部門で平成12年度 平澤忠名誉教授、平成19年度 石橋克禮名誉教授、平成29年度 森戸光彦名誉教授が受賞されています。本学は教育部門での評価が高く、受賞者が多いことがお分かりいただけると思います。

また、本学歯学部卒業生としては、第一期生の桃井先生、前田先生以来の、第5期生で、歯学部が男女共学変更後の最初の受賞者となりました。今後も本学、同窓生、在学生のために、教育、研究、臨床に貢献して頂けるのとことです。



住友歯科医学会会長からのプレートとメダルの授与と受賞の謝辞
（歯学部口腔顎顔面放射線・画像診断学講座 五十嵐千浪 記）

鶴見大学報 第443号（令和6年4月発行）

齊藤 悠学部助手

（公社）日本口腔インプラント学会 国際誌優秀論文賞を受賞

口腔リハビリテーション補綴学講座 齊藤悠学部助手が、令和5年度（公社）日本口腔インプラント学会『国際誌優秀論文賞』を受賞した。本賞はInternational Journal of Implant Dentistryに掲載された最も優れた学術論文に与えられる。論文の題名は"Characterization of bioactive substances involved in the induction of bone augmentation using demineralized bone sheets"であり、第53回（公社）日本口腔インプラント学会学術大会（札幌コンベンションセンター、令和5年9月15日～17日）の表彰式において授与された。

本研究は脱灰骨抽出物に注目し、含まれる物質の同定と骨造成を促進する効果を解析し、脱灰骨抽出物中の非コラーゲン性タンパク質が骨コラーゲンと生理活性物質TGF-βとを結合させることでTGF-βが脱灰骨に保持され、その活性を維持させる作用を明らかにした。本研究結果は、最終目標である生理活性物質徐放能を有するメンブレンを開発し、将来的にインプラント治療への応用の可能性を示唆している。

齊藤悠学部助手の受賞を讃え、一層の研鑽とご活躍を祈念したい。



学会会場での授賞式(写真右から3人目)

（口腔リハビリテーション補綴学講座教授 大久保力廣 記）

鶴見大学報 第443号（令和6年4月発行）

臨床研修歯科医

修了証授与式・辞令伝達式

令和5年度臨床研修歯科医51名の1年間にわたる研修の締めくくりとして、小川匠病院長のもと、3月28日（木）に大学記念館記念ホールにおいて、修了証授与式が執り行われた。

また4月1日（月）には、大学記念館第3講堂において、令和6年度臨床研修歯科医40名に対する臨床研修歯科

医辞令伝達式が執り行われ、1年間の臨床研修が開始された。



鶴見大学報 第443号 (令和6年5月発行)

■ 松本歯科大学 ■

柔道家・出口クリスタ、ケリー姉妹

塩尻警察署の一日署長で来学、啓発 留学生が110番通報訓練

「110番の日」の1月10日(水)、本学のある塩尻市出身の柔道家の出口クリスタ、ケリー姉妹(柔道女子カナダ代表)が塩尻警察署の一日署長となり、本学を訪れて110番通報の啓発活動などを展開した。本館1階の学生ラウンジにおいて学生や職員らにチラシを配り、110番の適正利用を訴えた。留学生による通報訓練もあった。

出口姉妹は、日本人の母とカナダ人の父の間に生まれ、地元で幼い頃に柔道を始めた。ともに松商学園高校を経て山梨学院大学に進み、五輪出場の夢をかなえるためにカナダ国籍を選択し、柔道女子カナダ代表となっている。

クリスタさんは、昨年の柔道世界選手権女子57キロ級でオール1本勝ちで優勝し、現在は世界女王。市民の声援を受けながら今夏のパリオリンピック出場およびメダル獲得を目指している。



一日警察署長として本学を訪れた
出口クリスタさん(右)とケリーさん

二人は、「生まれ育った地元の方々の応援が力になる。塩尻市の安全のために役に立てれば」との思いで一日署長を引き受けた。当日は、柔道着姿に「一日警察署長」と書かれたたすきをかけて学生ラウンジに登場し、110番通報の現状を紹介した。

昨年、県内に寄せられた110番通報は11万2900件で、そのうち誤通報や警察の対応が必要ない通報が2万8000件と4分の1を占めた。クリスタさんは「スマートフォンをポケットや鞆に入れているときにボタンが押しっぱなしになり、自動通報機能が働いて110番の誤通報が増えている」と注意を促し、ケリーさんは「緊急でない相談などは110番ではなく最寄りの警察署か交番へ」と呼びかけ、学生や職員らに適正通報のチラシを配った。



学内でチラシを配布するクリスタさん

また、県内では外国人による110番通報も増えていることから、留学生による通報訓練も行われ、中国からの留学生・呉澤漢君(歯学部1年生)が体験した。

署員が段ボールでつくった軽トラックの模擬車両役と歩行者役を演じ、交通事故現場を演出。呉君が事故現場を目撃した想定で、110番に通報し、通信指令課の警察官にいつ、どこで、なにがあったのか、車の特徴とナンバー、負傷者の状況、通報者である自分の名前などを日本語で的確に伝え、その落ち着いた対応ぶりは出口姉妹から賞賛された。



交通事故を想定して110番通報訓練を行った呉君(中央)

呉君は「今日の訓練はいい経験になった。今後、普段の生活で人命に関わる事故や事件などに遭遇した場合は、ためらわずに110番したい」と感想を述べた。

クリスタさんは「自分が実際に事故に立ち会えば、焦ってしまうと思う。通報の流れが訓練で確認できたので参考になった」、ケリーさんは「皆さんもスマートフォンの誤作動には気をつけていただき、正しく110番が使われればいい」と総括した。

Campus Today 第481号(令和6年2月発行)

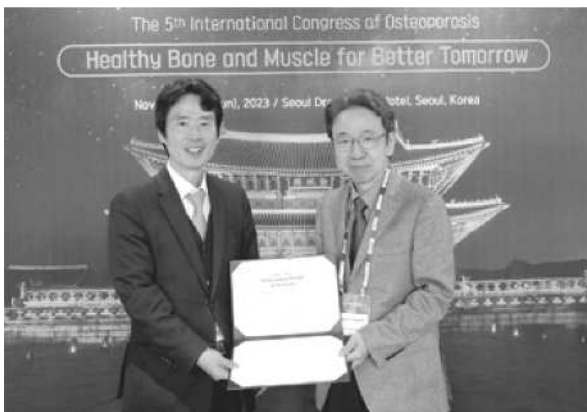
歯科放射線学講座・田口 明教授が ICO 国際学会賞 第5回国際骨粗鬆症学会

第5回国際骨粗鬆症学会(5th International Congress of Osteoporosis=ICO)が11月3日(金)から5日(日)まで韓国・ソウル市内のホテルで開催された。本学歯科放射線学講座の田口 明教授が出席し、これまでの功績を称えられ、ICO 国際学会賞を受賞した。

学会では、6つのシンポジウム(24講演)と4つの特別講演、20の一般講演およびE-Posterセッションが行われた。田口教授は日本骨粗鬆症学会代表として国際機関紙編集委員会に出席したほか、一般講演も行い、自身が主任研究員を務めた「全国医科歯科連携調査」の結果を報告した。

ICOは通常2年ごとに行われるが、コロナ禍の影響もあって、今回は4年ぶりの開催となった。日本骨粗鬆症学会では、ICOの開催に当たって毎回、座長とシンポジストを推薦していて、今回は東京医科歯科大学大学院(産科婦人科学講座)の寺内公一教授を座長に推薦。シンポジストには、大阪大学大学院(整形外科)の蛭名耕介准教授と、東京大学大学院(疾患生命工学センター臨床医工学部門)の北條宏徳准教授を推薦し、学会の中では両氏の講演も行われた。

また、基礎研究部門の特別講演では、愛媛大学大学院(愛媛大学プロテオサイエンスセンター)の今井祐記教授が登壇し、注目を集めていた。



国際学会賞を受賞した田口教授(右)、
Yoon-Sok Chung 韓国内分泌学会会長と共に

学会は、会長の Jae Hyup Lee 教授の挨拶で3日から始まったが、前日にも田口教授が招待者となって、韓国産婦人科学会と韓国骨粗鬆症学会の合同シンポジウムがあり、カナダの骨粗鬆症専門医である Jacques P. Brown 教授による、新規の骨粗鬆症性椎体骨折診断法に関する特別講演が行われるなど、活発な情報交換の場となった。

4日夜の Gala Dinner では、日本骨粗鬆症学会代表として田口教授が挨拶。続く国際機関紙編集委員会では、今年からインパクトファクターを得た Osteoporosis and Sarcopenia の今後の運営に関して、検討がなされた。

田口教授は、2014年、ICO 機関紙の創刊会議(韓国・ソウル)に日本骨粗鬆症学会代表として出席して以来、編集委員として機関紙発展にも尽力しており、今回はその功績を称えて、香港大学医学部の Ching-Lung Cheung 教授とともに、ICO 国際学会賞を受賞した。

Campus Today 第481号(令和6年2月発行)

西本智実さん指揮 「桜コンサート」盛大に

八重桜の下で各種イベント、にぎわう観桜会



西本さんの指揮で観客を魅了したイルミナートフィルによる
桜コンサート

学内にあるさまざまな桜の中でも、一段とあでやかな八重桜の咲く時期に開く恒例の「観桜会」が4月29日(月・祝)華やかに開かれた。新型コロナの流行があったため6年ぶりの開催で、訪れた人たちが、桜とともに野外での邦楽演奏や茶席、病院の健康イベント、指揮者・西本智実さん率いるイルミナートフィルハーモニーオーケストラの「桜コンサート」などの催しを楽しんだ。学生による大学祭「松濤祭」も同時開催され、キャンパス全体がにぎやかな雰囲気に包まれた。

観桜会は、希少種を含む多種多様な八重桜を楽しんでもらおうと1995年に始まり、今年で24回目。招待客や一般市民など多くの人が訪れ、本部館前に設けた観桜会受付で会場の地図やチラシを受け取ると、キャンパス内

を思い思いに巡って楽しんでいた。

真派青山流華道・煎茶禮法青山流による野点や、正派渡辺雅実穂社中の^の箏と渡辺 淳さんの尺八の演奏、全日本素人そば打ち名人の赤羽章司さんと関係者による信州そば打ちの実演販売、病院企画による健康講座など、建物の内外でさまざまな催しがあった。ミニSLコーナーや飲食屋台は、子供たちに大人気となっていた。松本市から友人と訪れた保育士の女性(64)は「これだけいろいろな種類の八重桜が見られる所はこの近くにはないと思う。ほとんどの八重桜がちょうど見ごろで最高です」と、催しを楽しみながら、スマートフォンで熱心に桜を撮影していた。

メインイベントは、本学名誉博士でもある西本さんによる「桜コンサート」で、学生たちの情操教育事業にも位置づけて、体育館で2回行われた。招待客や全歯学部生、全衛生学院生、当日の観桜会受付に並び、無料配布した入場券を手にした一般来場者、職員など、2回公演で約1400人が鑑賞し、澄んだ音色を堪能した。



中庭を雅びやかな雰囲気
に包んだ箏や尺八の演奏

各公演とも、本校校歌「あ、渺々^{びょうびょう}の蒼穹に」の演奏と、演奏に合わせた観客による斉唱で幕を開けた。特別なプログラム編成で行われ、ロッシーニの「歌劇『ウィリアムテル』序曲“フィナーレ”」や、ドヴォルザーク「スラヴ舞曲第10番」、チャイコフスキーの「バレエ『白鳥の湖』より“終曲”」など、親しみやすい名曲が次々と届けられた。ベートーベンの「交響曲第6番『田園』より第1楽章抜粋」のプログラムでは、チューニングの違いで曲の印象が変わることを感じ取ってもらおうと、作曲された時代に近い435ヘルツと、現在の442ヘルツの二つのパターンで披露。西本さんが音楽が心身に及ぼす影響について丁寧に解説した。また、西本さんが客席に説明しながら、楽器から出る音の振動で、フィル



祭の雰囲気を盛り上げる屋台

ムの上に広げた塩の粒子が動き、幾何学的な模様を作り出す様子をスクリーンに映し、音を可視化して楽しませる場面もあった。

イルミナートフィルは、バチカン国際音楽祭名誉パートナーオーケストラとなっていることから、西本さんは2013年から、バチカンでも精力的に活動していて、「今から見つかることもある。皆さんもフロンティアとなり、新しい世界をつくっていきましょう」と自らの経験を伝えながら、学生にエールを送った。アンコールではJ・シュトラウスの「ラデツキー行進曲」を盛大に届け、会場から大きな拍手が湧き起こった。

桜コンサートを一番の楽しみにして観桜会を訪れたという塩尻市の女性(47)は「西本さんの優雅で踊るような指揮でオーケストラが素晴らしい音を出していくのを目の前で見られて震えた」と感激していた。

Campus Today 第485号(令和6年6月発行)

内科学 川 茂幸特任教授が 日本消化器病学会学術賞受賞 「IgG4 関連疾患」の疾患概念確立への貢献で

内科学特任教授の川 茂幸医師が第8回日本消化器病学会学術賞(臨床分野)に決まり5月9日(木)、徳島県で開催された第110回日本消化器病学会総会で表彰式が行われた。長年にわたり全身性疾患の「IgG(アイジー)4関連疾患」の学際的、世界的な研究の発展に貢献した功績が高く評価された。

日本消化器病学会は1898年に発足した歴史ある学会で、3万5000人余りの会員を持つ。学術賞は、学会の発展に大きく貢献した会員の功績を学術的に顕彰することを目的に創設された。例年、基礎と臨床の2分野で1人ずつ選考されるが、該当者がいない年もある。

今回、川医師は「自己免疫性膵炎におけるIgG4の関与の解明とIgG4が関連する全身性疾患の提唱、ならびにIgG4関連疾患の疾患概念確立への貢献」の功績で受賞した。IgG4関連疾患は、免疫グロブリンIgG4が関与する全身性疾患で、膵臓、涙腺・唾液腺、腎臓、肺、血



総会の中で行われた表彰式に出席した川医師(左から2番目)

管など全身の多くの臓器が罹患し、機能障害をきたす原因不明の病気として知られている。川医師が前任の信大医学部第2内科学教室の助教授時代に研究を主導し、世界に先駆けて、代表的なIgG4関連疾患である自己免疫性膵炎とIgG4に関する二つの論文を、2001年に『New Engl J Med』(NEJM誌)、2002年に『Lancet』誌に発表し、それがこの疾患の概念確立の礎となった(High serum IgG4 concentrations in patients with sclerosing pancreatitis. NEJM 344:732-8,2001, Hydronephrosis associated with retroperitoneal fibrosis and sclerosing pancreatitis. Lancet. 359:1403-4,2002)。

『NEJM』『Lancet』両誌は国際的に信頼されている世界五大医学雑誌に含まれ、両論文の被引用回数は2023年4月24日時点でWeb of Scienceでそれぞれ1826, 400 Google Scholarで3182, 683と全世界で高く評価されている。また、二つの論文発表を機に各方面でIgG4関連疾患研究に弾みがつき、各種診断基準、ガイドラインなどにも広く引用されるようになった。その後、川医師自身もさらに研究を進め、自己免疫性膵炎の診断体系の確立や病態・病因解明の研究を主導し、IgG4関連疾患という、現代では極めて珍しい新規疾患の疾患概念確立に尽力した。

川医師は表彰式の翌10日(金)、受賞を記念した特別講演も行った。聴講者は世界的に注目を集めている「IgG4関連疾患」の疾患概念確立に大きく貢献した川医師の取り組みにあらためて高い関心を寄せた。



受賞を記念して特別講演をする川医師

川医師は1977年に信大医学部を卒業し、第二内科学教室に入局。専門の膵臓に関する臨床研究の過程で、1994年からIgG4関連疾患研究に着目してきた。およそ半世紀にわたる臨床研究生活では、研究に没頭するあまり、稀にしか帰宅できず、「飼い犬に牙をむかれた時期もあった」と振り返る。2005年から信大総合健康安全センターセンター長・教授を務めた後に退官し、2017年からは本学で臨床研究を続けている。松本歯科大学病院健診センターでも活躍し、全国的にも珍しい「膵臓病ドック」にも精力的に取り組んでいる。

川医師は今回の受賞を「ようやく自分たちの研究業績が認められたと思うとうれしい」と喜びつつ、「IgG4がどうして本疾患で増えるのかなど、やり残していることがある」とも話し、受賞を機に、病因解明につながる研究により一層打ち込む決意を新たにしている。

Campus Today 第485号(令和6年6月発行)

■朝日大学歯学部■

珠洲市での救護活動

能登半島地震への医科歯科医療センターの取組み

2024年2月4日から7日にかけて、岐阜県災害歯科支援チーム(JDAT)が、2024年1月1日に発生した能登半島地震への支援として石川県珠洲市で救護活動を行いました。本学からは、歯学部の横矢隆二准教授、日下部修介准教授、野村玲奈副歯科衛生士長、高橋明里歯科衛生士が参加しました。

珠洲市内の蛸島小学校においては、歯科治療、口腔ケアの指導や必要な物資の搬入等を行いました。この活動は、医科歯科医療センターと公益社団法人岐阜県歯科医師会が2023年8月に締結した「災害時の歯科保健医療救護活動に関する協定書」に基づいて行われました。被災地の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。



出発日の様子

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第151号

(令和6年5月発行)

White Coat Ceremony 2024

登院式で覚悟を新たに

2024年4月6日、歯学部5年生を対象とした登院式(白衣授与式)を開催しました。「White Coat Ceremony」と称して始まった登院式は本年度で15回目を迎え、120名が出席しました。

大友克之学長は登院許可を告げられ、医療人としての自覚と責任の重さを感じつつ、緊張感を持って臨床実習に取り組むよう激励するとともに、歯科医師国家試



大友学長による登院許可と告辞

験を見据えて専門知識をより一層深めるように呼びかけました。玉置幸道歯学部長は、自発的な学びにより有意義な臨床実習にしてほしい旨の言葉を送りました。

宣誓と決意

6名の学生代表が登壇して、大友学長、玉置歯学部長、藤原医科歯科医療センター長や歯学部の教授らから、白衣及び Student Dentist 認定証が授与されました。



学生の宣誓

全学生が新たな気持ちで白衣を身にまとい、学生代表の長尾映里さんが臨床実習に向けて宣誓を行いました。長尾さんは社会的責任を常に自覚し、積極的に臨床実習に参加することを誓いました。また、藤原医科歯科医療センター長は、学んだことをグループで共有し、お互いを高めあうよう呼びかけました。

学生たちは真剣な表情で先生方の話に耳を傾けて、臨床実習への意気込みと決意を新たにしました。

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第 152 号
(令和 6 年 7 月発行)

顕著な成果が認められる

歯学部小児歯科学分野の研究グループが受賞

歯学部小児歯科学分野の齊藤一誠教授を筆頭とする研究グループが、令和 6 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰（科学技術賞「理解増進部門」）を受賞しました。この賞は、科学技術に関する研究開発や理解増進等で顕著な成果を収めた者に対して、その功績を称えることにより、科学技術に携わる者の意欲を向上させ、わが国の科学技術水準の向上に寄与することを目的としています。

この度の受賞は、「成長発達期小児のお口ほかんの現状とその影響への理解増進」に関する研究に基づいています。小児期の口腔健康が子どもたちの全体的な発達に及ぼす影響についての社会的認識を深めることに寄与した点が評価されました。



(左から)
野上有紀子非常勤講師、
齊藤一誠教授、海原康孝
准教授(小児歯科学分野)

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第 152 号
(令和 6 年 7 月発行)

災害時における救護病院指定に関する協定を締結

災害発生時の迅速な医療救護活動

2024 年 4 月 15 日、岐阜市役所において「災害時における救護病院指定に関する協定」の締結式が行われ、朝日大学病院を含む岐阜市内の 7 つの病院と岐阜市とで災害時の患者の受入れに関する協定が結ばれました。この協定は、岐阜市が災害発生時に迅速かつ効果的な医療救護活動を行うことを目的としています。

協定を締結した病院は、朝日大学病院、河村病院、岐阜清流病院、澤田病院、長良医療センター、安江病院、山内ホスピタルです。今回は、岐阜市内の救急指定病院のうち、120 床以上の病床を有するか、内科及び外科の両方を備えている病院が選定基準にされました。これにより、岐阜市は災害に強い医療救護体制を構築し、市民の健康を守るための準備が一層強化されました。



(右から 3 番目)朝日大学病院・日下義章病院長

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第 152 号
(令和 6 年 7 月発行)

■ 愛知学院大学歯学部 ■

令和 5 年度 第 58 回歯学部学位記授与式を挙行政いたしました

2024 年 3 月 8 日(金) 楠元キャンパス 110 周年記念講堂で「令和 5 年度 歯学部学位記授与式」を挙行政し、卒業生へ引田弘道学長から学位記が授与されました。

式を終えた卒業生は、恩師に見送られ、晴れやかな表情で会場を後にしました。





愛知学院大学歯学部ホームページ（令和6年3月掲載）

歯学部1年生一泊研修が行われました

2024年4月6日(土)・7日(日)に1年生の一泊研修が行われました。

当日は学年主任の辻本暁正教授から「勉強法の価値を知り、模索してみよう」と題して、これからの講義の受け方や成績アップにつながる勉強の仕方について、先生の経験談を踏まえたわかりやすい説明がありました。また、本学歯学部卒業生でもある明海大学 歯学部 口腔生物再生医工学講座の猪俣恵教授、東京歯科大学 歯科理工学講座の服部雅之教授をお招きし、「臨床医学の発展に欠かせない基礎研究」「進級、卒業、国家試験合格に向けての心構え～仲間とともに」という演題で講演をいただきました。午後のグループディスカッションは90分と長時間でしたが、各班でテーマを決め、チューターの教員がアドバイスをしながら進め、各班から結果の報告をしました。



愛知学院大学ホームページ（令和6年4月掲載）

本学が取り組む「宇宙歯学研究」について、歯学部 前田教授・近藤教授が高市早苗大臣(経済安全保障担当大臣・内閣府特命担当大臣)に報告しました

2024年6月20日(木)、本学歯学部の前田初彦教授(口腔病理学・歯科法医学講座)と近藤尚知教授(冠橋義歯・口腔インプラント学講座)は、経済安全保障担当大臣であり、内閣府特命担当大臣(クールジャパン戦略、知的財産戦略、科学技術政策、宇宙政策、経済安全保障)を務める高市早苗大臣と面談いたしました。

面談では、宇宙歯学研究についての話題が中心となりました。

高市大臣は、本学の研究に大変興味を示され、宇宙での生活をより快適にするための研究の重要性を強調されました。また、宇宙歯学研究が被災者支援や在宅介護においても大きな役割を果たす可能性があることについてもご意見をいただきました。

今回の面談を通じて、本学の研究が持つ幅広い応用可能性とその社会的意義について再確認することができました。今後も高市大臣のご意見を参考にしながら、宇宙歯学研究をさらに発展させていきます。



愛知学院大学歯学部ホームページ（令和6年6月掲載）

大阪歯科大学

歯学部生が障がい者スポーツ大会でボランティア活動

「i-ボッチャ2023ぶっちょ杯」が11月18日、大阪市舞洲障がい者スポーツセンターで開催され、本学歯学部5年生の李恩率さんらがボランティアとして大会運営をサポートしました。

2017年に始まった「インクルーシブ・ボッチャ大会」は、障がいのある人もない人も、すべての人が一緒に参加できるスポーツイベント。障がい者歯科(大阪歯科大学附属病院)の田中佑人准教授の呼びかけで、本学歯学部生や卒業生が第1回大会から参加しています。

この日は100余名の障がい者がボッチャ（パラリンピックの正式種目）競技に参加。李さんらは、予選72試合と決勝トーナメント28戦の得点管理を担当したほか、運営の合間に咬合力測定などの歯科検査体験会の補助も行いました。

今回の活動を通して、さまざまな障がい者と触れ合い、障がい者の定義と共生についてあらためて深く考えさせられたという李さん。障がいの有無にかかわらず、みなで同じスポーツをする光景に「私たちが理想とする共生社会のあるべき姿」を見て、「これからも積極的に参加させていただきます」と話していました。



歯学部5年生 李恩率さんと田中佑人准教授(右)

大阪歯科大学ホームページ（令和5年12月掲載）

キングス・カレッジ・ロンドン歯学部長 建築中の楠葉西学舎(看護学部)を見学

海外協定校であるキングス・カレッジ・ロンドンのMichael Escudier 歯学部長が10月、大阪歯科大学を訪れ、川添堯彬理事長・学長を表敬訪問されました。Michael先生は歯学部長就任あいさつを兼ねて夫妻で来学。川添理事長・学長や三宅達郎国際交流部長ら大学役職者と会談し、附属病院等を見学されました。また、「Granulomatous condition of the orofacial region」と題して特別講演が行われ、本学教員・大学院生139人が聴講しました。

英国の由緒ある名門校キングス・カレッジ・ロンドンと本学との交流は2011年、同校歯学部との学術交流協定締結をその嚆矢としています。16年からは学生短期海外研修がスタート。19年にはMike Curtis前歯学部長が天満橋キャンパスで特別講演をされています。

キングス・カレッジ・ロンドン看護学部(The Florence Nightingale Faculty of Nursing, Midwifery & Palliative Care)はその名が示すとおり、フローレンス・ナイチンゲールが1860年、聖トーマス病院の中に開校した看護学校を起源とする、世界有数の看護教育機関。今回、Michael歯学部長は楠葉キャンパスを訪れた際、市道を挟んですぐ向かいに建築中の「大阪歯科大学

楠葉西学舎(看護学部)」を目にし、誕生間近の本学看護学部にごエールを送ってくれました。「口腔ケアは全身の健康に関与しています。その点において大阪歯科大学が看護学部を創設することは非常に意義深いと感じています。今後、看護学部とも協力していきたいと思っています」。

コロナ禍で中断していた学生の訪問研修も来春から再開。歯学部に加え看護学部という共通の学部を擁する両校の交流が、今後ますます進展するよう願われます。



キングス・カレッジ・ロンドンのMichael Escudier 歯科部長ご夫妻の本学へ表敬訪問



キングス・カレッジ・ロンドンのMichael Escudier 歯科部長と川添理事長・学長

大阪歯科大学ホームページ（令和5年12月掲載）

歯科衛生士・歯科技工士国家試験 4年連続、合格率100%を達成！ 社会福祉士国家資格とのダブルライセンス 取得者は新卒受験者で6名達成！

3月26日、医療保健学部 口腔保健学科67名、口腔工学科24名が受験した「第33回歯科衛生士国家試験」及び「令和5年度歯科技工士国家試験」の合格発表があり、見事全員が合格し、学部開設時入学の1期生から4期連続で合格率100%を達成しました。

また、社会福祉士コース履修の新卒6名が「第36回社会福祉士国家試験」に受験・合格し、こちらも合格率100%を達成しました。

なお、既卒の受験者については、3名が合格され、当年度は合計9名の方が国家資格のダブルライセンス獲得

達成となります。

医療保健学部 2023 年度卒業生の皆さん、本当におめでとうございました。皆さんの新たなステージでのますますのご活躍を応援しております。

大阪歯科大学ホームページ（令和6年3月掲載）

大阪歯科大学 / 立命館大学 口腔・リハビリテーション・栄養コンソーシアム設立総会を開催しました

このほど、大阪歯科大学と立命館大学は口腔・リハビリテーション・栄養コンソーシアムを結成し、3月29日、立命館大学大阪いばらきキャンパスで設立総会を開催しました。このコンソーシアムは、昨年8月に締結された両大学の学術交流協定に端を発するもので、フレイル予防の促進や、口腔・リハビリテーション・栄養によるQOLの向上に対応した共同研究を立ち上げ、社会課題の解決を目指した社会実装を実現することを目的としています。

総会の冒頭、発起人を代表して本学の馬場俊輔・医療イノベーション研究推進機構（TRIMI）機構長が挨拶し、「高齢者が抱えるさまざまな問題を現場から抽出し、みなで現場に落とし込めるようにドライブをかけていきたいということで、このコンソーシアムを立ち上げることになった。立命館大学と大阪歯科大学、そして両大学が共に提携する大阪介護老人保健施設協会。この3者のトライアングルの中でコンソーシアムを推進していきたい。介護分野の生産性向上に向けて、独自に開発し、現場に着地できるような糸口を見つけられれば」と抱負を述べました。

来賓代表挨拶に立った本学の川添堯彬理事長・学長は「このコンソーシアムの設立が高齢者のQOLの向上、フレイル予防の促進、介護サービスの持続可能な発展に向けた大きな一歩となるよう願っている。企業、大学、介護施設——みなさまの豊富な経験と専門知識を生かし、共に新たな価値を創造しましょう」と呼びかけました。

次いで、参加会員の報告があり、幹事会員は大阪歯科大学、立命館大学、公益社団法人大阪介護老人保健施設協会（大老協）、アース製薬株式会社、エヌ・ソフトウェア株式会社、TOPPAN株式会社、株式会社ナリコマエンタープライズ、株式会社ベースノート、株式会社モリタの9組織。一般会員は株式会社タニタというメンバーで出発することになりました。

議事に入り、第1号議案「役員選出」の件は、会長に馬場俊輔大阪歯科大学教授・TRIMI機構長、副会長に肥塚浩立命館大学教授・医療介護経営研究センター長と光山誠医療法人敬英会理事長・大老協理事、幹事は幹事

会員の各企業から1名、監査委員は大老協の木場康文事務局長とする提案がありました。第2号議案「事業」については2024～2026年度の3カ年、共同研究として、介護保険の政策（報酬改定動向）に則し自立支援・重度化予防を背景とする口腔・リハビリテーション・栄養の一体的取組に関する調査研究事業を、大老協会員法人等のデイケアをフィールドに行う旨の説明がありました。そのほか、会則を変更してコンソーシアムに「顧問」を置くこととし、本学の川添理事長・学長、大老協の川合秀治会長、立命館大の徳田昭雄副学長が顧問に就任するなど全4議案が承認されました。



立命館大学いばらきキャンパスでの
コンソーシアム設立総会の模様

大阪歯科大学ホームページ（令和6年4月掲載（抜粋））

福岡歯科大学

福岡歯科大学長に高橋裕氏を再任

福岡歯科大学長の任期が2024年1月31日で満了となることに伴い、2024年1月22日開催の第598回理事会の議を経て、高橋裕氏の再任を決定しました。任期は2024年2月1日から2027年1月31日までとなります。



高橋 裕 福岡歯科大学長

福岡学園広報誌 Vol.32 No.1（第121号）（令和6年2月掲載）

口腔医学研究センターシンポジウムを開催

2023年12月8日、福岡歯科大学において「口腔医学研究センターシンポジウム2023」を開催しました。口腔医学研究センターに所属する北尾洋之教授より「抗が

ん剤作用機序に関する基礎研究と臨床・創薬への展開」と題した特別講演が行われたほか、「常態系」、「病態系」、「臨床歯学系」、「医学系」の各プラットフォームに所属する教員からそれぞれの研究内容について講演がありました。参加者は各研究について興味深い様子で聞き入り、質疑応答では活発に意見が交わされました。



シンポジウムの様子

福岡学園広報誌 Vol.32 No.1 (第 121 号) (令和 6 年 2 月掲載)

新キャンパス整備計画 1 期(新本館)起工式を挙行

2024 年 2 月 3 日、新キャンパス整備計画 1 期(新本館)工事に先立ち、起工式が執り行われ、水田理事長、田口常務理事、高橋福岡歯科大学長をはじめとする本学園関係者、設計および施工関係者が参列し、工事の無事を祈念しました。

「大学、病院、老健施設、保育園などの福岡学園の資産を活かして、豊かな人間性をもつ医療人の育成環境をつくる」ことを整備方針とするとともに、2020 年に開院した新病院に続いて、①学園をつなぐ、②地域とつながる、③人をつなぐ、④未来へつなぐの「4 つのつなぐ」を掲げて学生ファーストなキャンパスとすることとしています。2025 年 7 月の完成を目指し、工事を開始しました。



起工式の様子



新本館のイメージ図

福岡学園広報誌 Vol.32 No.2 (第 122 号) (令和 6 年 5 月掲載)

福岡歯科大学生が日本小児歯科学会学部学生優秀賞を受賞

福岡歯科大学第 6 学年(2024 年 3 月卒業、福岡歯科大学医科歯科総合病院研修歯科医)の中村麻衣さんが日本小児歯科学会学部学生優秀賞を受賞しました。同賞は、学業、臨床成績が優秀で小児歯科学へ高い意気込みを持った学部学生を表彰する制度です。受賞した中村さんは「思いがけず優秀賞をいただき大変嬉しいです。4 月から医科歯科総合病院の小児歯科にて臨床研修を行いますので、岡教授をはじめ多数の先生方にご指導いただきながら、日々学んでいきたいと思っています。」と話しました。今後の活躍が期待されます。



中村麻衣さん(左)と成育小児歯科学分野岡暁子教授(右)

福岡学園広報誌 Vol.32 No.2 (第 122 号) (令和 6 年 5 月掲載)

協会役員・部会・委員会名簿

一般社団法人 日本私立歯科大学協会役員名簿

役職名	氏名	所属大学および役職名
会長	羽村章	日本歯科大学生命歯学部特任教授
副会長	大友克之	朝日大学学長
副会長	藤井一維	日本歯科大学学長
副会長	一戸達也	東京歯科大学学長
専務理事	櫻井孝	神奈川歯科大学学長
常務理事	高橋裕	福岡歯科大学学長
常務理事	宇田川信之	松本歯科大学歯学部長
常務理事	福本雅彦	日本大学松戸歯学部長
理事	川添堯彬	大阪歯科大学理事長・学長
理事	大久保力廣	鶴見大学歯学部長
理事	古市保志	北海道医療大学歯学部長
理事	宮田淳	明海大学理事長
理事	本田雅規	愛知学院大学歯学部長
理事	馬場一美	昭和大学歯学部長
理事	飯沼利光	日本大学歯学部長
理事	瀬川洋	奥羽大学歯学部長
理事	小林琢也	岩手医科大学歯学部長
監事	牧村正治	日本大学名誉教授
監事	高橋偉茂	朝日大学内部監査室長

(R6.8.31 現在)

教育・研究部会

部会長：宇田川 信之
日本私立歯科大学協会常務理事
松本歯科大学歯学部長

氏名	大学名・役職名
古市保志	北海道医療大学歯学部長
岸光男	岩手医科大学歯学部教務委員長
高田訓	奥羽大学歯学部教務委員長
日比野靖	明海大学歯学部教務部長
山本仁	東京歯科大学副学長
馬場一美	昭和大学歯学部長
林誠	日本大学歯学部学務担当
金田隆	日本大学松戸歯学部学務担当
菊池憲一郎	日本歯科大学生命歯学部長
藤井一維	日本歯科大学学長
槻木恵一	神奈川歯科大学副学長
山越康雄	鶴見大学歯学部教務・学生部長
宇田川信之	松本歯科大学歯学部長
玉置幸道	朝日大学歯学部長
本田雅規	愛知学院大学歯学部長
田中昭男	大阪歯科大学常務理事・副学長・歯学部長
稲井哲一朗	福岡歯科大学学生部長

(R6.8.31 現在)

病院部会

部会長：高橋 裕
日本私立歯科大学協会常務理事
福岡歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
舞田健夫	北海道医療大学病院副病院長
山田浩之	岩手医科大学附属内丸メデイカルセンター歯科医療センター長
鈴木史彦	奥羽大学歯学部附属病院長
横瀬敏志	明海大学歯学部病院長
山下秀一郎	東京歯科大学水道橋病院長
檜宏太郎	昭和大学歯科病院長
佐藤秀一	日本大学歯学部付属歯科病院長
内田貴之	日本大学松戸歯学部付属病院長
内川喜盛	日本歯科大学附属病院長
戸谷収二	日本歯科大学新潟病院長
井野智	神奈川歯科大学附属病院長
小川匠	鶴見大学歯学部附属病院長
樋口大輔	松本歯科大学病院長
藤原周	朝日大学医科歯科医療センター長
三谷章雄	愛知学院大学歯学部附属病院長
中嶋正博	大阪歯科大学理事・附属病院長
坂上竜資	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R6.8.31 現在)

経営部会

部会長：大友 克之
日本私立歯科大学協会副会長
朝日大学学長

氏名	大学名・役職名
長原利明	北海道医療大学事務局長
山本和博	岩手医科大学事務局長
大橋明石	奥羽大学事務局長
中山浩之	明海大学事務局長
加藤靖明	東京歯科大学千葉歯科医療センター参与
倉口秀美	昭和大学学事部長
井上由大	日本大学歯学部事務局次長
谷龍樹	日本大学松戸歯学部事務局長
北見公一	日本歯科大学経理部長
若槻紀寿	日本歯科大学法人事務局長
菅原光則	神奈川歯科大学法人事務局長
竹内康治	鶴見大学事務局長
廣瀬國基	松本歯科大学事務局長
田中聡	朝日大学事務局長
日比茂久	愛知学院大学歯学部次長
中尾昌彦	大阪歯科大学経理部長
石橋慶憲	福岡歯科大学事務局長

(R6.8.31 現在)

広報委員会

委員長：福本 雅彦
日本私立歯科大学協会常務理事
日本大学松戸歯学部長

氏名	大学名・役職名
長原利明	北海道医療大学事務局長
齊藤旭	岩手医科大学歯学部教務課長
三浦孝英	奥羽大学病院事務長
高山裕子	明海大学歯学部庶務課長
橋本貞充	東京歯科大学広報・公開講座部長
吉岡由貴	昭和大学総務部総務課係員
山崎和彦	日本大学歯学部庶務課長
勝俣剛勇	日本大学松戸歯学部庶務課長
宇多美穂	日本歯科大学生命歯学部庶務部長
本宮由比子	日本歯科大学新潟生命歯学部事務部長
中村琢磨	神奈川歯科大学総務部総務課長
宮崎輝	鶴見大学総務部総務課長
廣瀬國基	松本歯科大学事務局長
纈纈力	朝日大学学事部入試広報課長
真新薫	愛知学院大学歯学部事務長
松村誠一	大阪歯科大学管理部長
都築尊	福岡歯科大学医科歯科総合病院副病院長

(R6.8.31 現在)

受験生確保対策委員会

委員長：福本 雅彦
日本私立歯科大学協会常務理事
日本大学松戸歯学部長

氏名	大学名・役職名
古市保志	北海道医療大学歯学部長
渡邊義典	岩手医科大学入試・キャリア支援課長
瀬川洋	奥羽大学歯学部長
伊藤敦	明海大学歯学部事務部長
船山雅史	東京歯科大学教務課長
岩根裕之	昭和大学入学支援課長
中澤謙司	日本大学歯学部教務課長
村山賢是	日本大学松戸歯学部教務課長
中世古大介	日本歯科大学東京短期大学事務長
五十嵐謙介	日本歯科大学新潟生命歯学部教務部・学生部副部長
青山典生	神奈川歯科大学募集広報部長
柴角政利	鶴見大学入試センター事務部入試課長
宇田川信之	松本歯科大学歯学部長
石本昭彦	朝日大学歯学部事務部長
真新薫	愛知学院大学歯学部事務長
野崎中成	大阪歯科大学アドミッションセンター長
稲井哲一朗	福岡歯科大学学生部長

(R6.8.31 現在)

研修委員会

委員長：宇田川 信之
日本私立歯科大学協会常務理事
松本歯科大学歯学部長

氏名	大学名・役職名
長原利明	北海道医療大学事務局長
齊藤旭	岩手医科大学歯学部教務課長
大橋明石	奥羽大学事務局長
伊藤敦	明海大学歯学部事務部長
田口円裕	東京歯科大学事務局長
小暮祐一	昭和大学人事課長
佐々木孝全	日本大学歯学部事務長
勝俣剛勇	日本大学松戸歯学部庶務課長
田口潤	日本歯科大学生命歯学部事務部長
若槻紀寿	日本歯科大学法人事務局長
藤原剛	神奈川歯科大学総務部人事課長
平野司	鶴見大学総務部長
廣瀬國基	松本歯科大学事務局長
石本昭彦	朝日大学歯学部事務部長
高嶋基則	愛知学院大学歯学部事務長
清廣哲之	大阪歯科大学法人事務局長
石橋慶憲	福岡歯科大学事務局長

(R6.8.31 現在)

歯科医師臨床研修の在り方検討委員会

委員長：一戸 達也
日本私立歯科大学協会副会長
東京歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
舞田 健夫	北海道医療大学病院副院長
佐藤 健一	岩手医科大学歯科医師臨床研修センター長
山森 徹雄	奥羽大学歯学部教授
横瀬 敏志	明海大学歯学部病院長
平田 創一郎	東京歯科大学臨床研修委員長
長谷川 篤司	昭和大学歯学部教授
萩原 芳幸	日本大学歯学部卒業教育担当
野本 たかと	日本大学松戸歯学部卒業教育担当
小川 智久	日本歯科大学生命歯学部臨床研修管理委員会プログラム責任者部会長
二宮 一智	日本歯科大学新潟生命歯学部臨床研修指導歯科医長
大橋 桂	神奈川歯科大学附属病院総医局長・研修管理委員長
山口 博康	鶴見大学歯学部学内教授
宇田川 信之	松本歯科大学歯学部長
藤原 周	朝日大学医科歯科医療センター長
小島 規永	愛知学院大学歯学部講師
百田 義弘	大阪歯科大学学生部長
坂上 竜資	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R6.8.31 現在)

診療参加型臨床実習の在り方検討委員会

委員長：一戸 達也
日本私立歯科大学協会副会長
東京歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
長澤 敏行	北海道医療大学歯学部教授
山田 浩之	岩手医科大学附属丸メディカルセンター歯科医療センター長
鈴木 史彦	奥羽大学歯学部附属病院長
横瀬 敏志	明海大学歯学部病院長
村松 敬	東京歯科大学臨床教育委員長
長谷川 篤司	昭和大学歯学部教授
佐藤 秀一	日本大学歯学部付属歯科病院長
深津 晶	日本大学松戸歯学部付属病院副病院長
内川 喜盛	日本歯科大学附属病院長
海老原 隆	日本歯科大学新潟生命歯学部臨床実習教育委員会副委員長
山口 徹太郎	神奈川歯科大学教授
山本 雄嗣	鶴見大学歯学部教授
亀山 敦史	松本歯科大学教授
河野 哲	朝日大学歯学部臨床実習センター長
諸富 孝彦	愛知学院大学歯学部教務委員長
山本 一世	大阪歯科大学教務部長・理事
坂上 竜資	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R6.8.31 現在)

附属病院感染対策協議会

議長：高橋 裕
日本私立歯科大学協会常務理事
福岡歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
永易 裕樹	北海道医療大学歯学部教授
八重柏 隆	岩手医科大学歯学部教授
小嶋 忠之	奥羽大学歯学部講師
星野 倫範	明海大学歯学部医療安全執行部長
松坂 賢一	東京歯科大学水道橋病院臨床検査部長
安藤 浩一	昭和大学歯学部准教授
米原 啓之	日本大学歯学部学部長
山口 秀紀	日本大学松戸歯学部附属病院副病院長
石垣 佳希	日本歯科大学生命歯学部教授
水谷 太尊	日本歯科大学新潟生命歯学部准教授
沢井 奈津子	神奈川歯科大学教育企画部准教授
大島 朋子	鶴見大学歯学部教授
栗原 祐史	松本歯科大学教授
安田 順一	朝日大学歯学部准教授
宮地 斉	愛知学院大学歯学部准教授
松本 和浩	大阪歯科大学講師
橋本 憲一郎	福岡歯科大学准教授

(R6.8.31 現在)

賛助会員企業

紹

介

コ

ー

ナ

ー



株式会社モリタ製作所

Thinking ahead. Focused on life.

すこやかな未来へ。

モリタ製作所は「質の高い医療の普及のため、最良の製品とサービスを提供し社会に貢献する」という経営理念のもと、これまで臨床、教育、研究現場の先生方のご指導を仰ぎながら先生方の夢を実現するべく数多くの製品とサービスを世の中へ送り出してきました。

当社のものづくりは「人にやさしい」という考えかたがベースになっています。そして、医療機器として求められる安全性と効果効能の検証はもちろんのこと、快適性や機能性に加えて、創造性、革新性、先進性をたいせつにしているものづくりに励んでいます。

これからもみなさんに愛される製品とサービスを提供していけるようにさらに研鑽を積み重ねてまいりたいと思います。

事業内容

- ・歯科用医療機器の開発・製造販売
- ・医科用医療機器の開発・製造販売
- ・その他動物用医療機器の開発・製造販売



代表取締役社長

田中 博

所在地

〒 612-8533

京都府京都市伏見区東浜南町 680 番地

TEL 075-611-2141

<http://www.morita.com/jmmc/ja/>

大榮歯科産業株式会社

日本私立歯科大学協会の皆様、はじめまして。大榮歯科産業株式会社の代表取締役大石哲也でございます。この度は、私どもを賛助会員企業に加入頂けたこと、心より御礼申し上げます。

私どもは昭和10年に創業し、以来80余年にわたり歯科技工の発展に貢献してきました。初代社長である祖父が、モノの少ない時代に、無い物は自分で作ろうと決意したのが始まりです。社名の「大榮」は、火が燃えるように繁栄してほしいという願いを込めたものです。その理念を継承し、信頼を大切に実用的で細部まで気を配ったオリジナル製品を開発しています。

私どもは、日本私立歯科大学協会の会員の皆様と共に、歯科医療の発展に寄与できることを誇りに思っております。今後とも質の高い製品・サービスを提供し、ご期待に応えられるよう頑張りますので、引き続きのご支援をお願いいたします。

事業内容

- ・歯科医療機器の開発製造、販売、輸出入
- ・全国の歯科ディーラーより歯科医院、歯科技工所、歯科大学、歯科技工専門学校へ販売



代表取締役

大石 哲也

所在地

〒 550-0003

大阪府大阪市西区京町堀 1-10-17

TEL 06-6441-3332

FAX 06-6445-1276

<https://www.daiei-dental.jp>

一般社団法人 日本私立歯科大学協会加盟名簿

■加盟大学および学部■

北海道医療大学歯学部
 岩手医科大学歯学部
 奥羽大学歯学部
 明海大学歯学部
 東京歯科大学
 昭和大学歯学部
 日本大学歯学部
 日本大学松戸歯学部
 日本歯科大学生命歯学部
 日本歯科大学新潟生命歯学部
 神奈川歯科大学
 鶴見大学歯学部
 松本歯科大学
 朝日大学歯学部
 愛知学院大学歯学部
 大阪歯科大学
 福岡歯科大学

■賛助会員■

(株) シ ラ ネ
 (株) ヨ シ ダ
 デンツプライシロナ(株)
 長田電機工業(株)
 (株) 東京技研
 (株) ジーシー
 吉田精工(株)
 (株) 八 甕
 サ サ キ(株)
 (株) モ リ タ
 (株) ニ ッ シ ン
 (株) 松 風
 (株) モ リ タ 製 作 所
 日本歯科薬品(株)
 (株) 玉井歯科商店
 (株) A D I . G
 石福金属興業(株)
 沖歯科要材(株)
 (株) J M O r t h o

(株) トクヤマデンタル
 (株) ミ ク ロ ン
 (株) モリタ東京製作所
 (株) Y D M
 サンメディカル(株)
 (株) 田中歯科器械店
 医歯薬出版(株)
 (株) ブイ・エス・シー
 (株) E P A R K
 メ デ ィ ア (株)
 (株) メルリックス
 大榮歯科産業(株)
 ネオ製薬工業(株)
 日本歯科企業協議会
 (株) アイダ設計
 (株) オールデンタルオフィス
 (株) 竹中庭園緑化
 (株) 東京歯材社

◇編集後記◇

協会広報第88号をお届けします。
 今号の巻頭言は、松本歯科大学の宇田川信之歯学部長からいただきました。
 この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。
 今後とも、協会広報の内容の充実に努めてまいりたいと思いますので、ご意見・ご要望等がございましたら、協会事務局までお寄せくださるようお願いいたします。

広報委員長（協会常務理事）
 福本雅彦

令和6年9月30日発行

日本私立歯科大学協会広報 第88号

発行人 一般社団法人 日本私立歯科大学協会 羽村 章
 〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-9 私学会館別館第二ビル2階
 電話 03-3265-9068 FAX 03-3265-9069
 協会のホームページアドレス <https://www.shikadaikyo.or.jp>

制作協力：(株)日本出版サービス

「題字」及び「シンボルマーク」について

【題字】初代会長 白敷美輝雄先生の揮毫

【シンボルマーク】協会の英語表記「Japanese Association of Private Dental schools」の頭文字を図案化（初代専務理事 宮田侑先生による）